



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

平成25年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報 告 書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として、平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」を実施しております。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに 1 週間程度派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）と公演を実施するものです。

市区町村の公共ホールを対象に、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、実施された全国 8 か所の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

目次

事業概要

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	5
公共ホール現代ダンス活性化事業の考え方	7
事業の流れ	8

実施内容紹介(実施日程順)

朝倉市総合市民センター ピーポート甘木（福岡県朝倉市）	10
近江八幡市文化会館（滋賀県近江八幡市）	20
酒田市民会館 希望ホール（山形県酒田市）	30
成田国際文化会館（千葉県成田市）	40
小田原市民会館（神奈川県小田原市）	50
樺のホール（千葉県野田市）	60
富山市民プラザ（富山県富山市）	70
多可町文化会館 ベルディーホール（兵庫県多可町）	80

事業資料

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	92
コーディネータープロフィール	97

事業概要

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

1 趣 旨

財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

2 実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	実施ホール名
山形県酒田市	酒田市	酒田市民会館 希望ホール
千葉県野田市	櫛のホール活性化共同体 代表 アクティオ株式会社	櫛のホール
千葉県成田市	株式会社ケイミックス	成田国際文化会館
神奈川県小田原市	小田原市	小田原市民会館
富山県富山市	株式会社富山市民プラザ	富山市民プラザ
滋賀県近江八幡市	近江八幡市	近江八幡市文化会館
兵庫県多可町	多可町	多可町文化会館 ベルディーホール
福岡県朝倉市	朝倉市	朝倉市総合市民センター ピーポート甘木

*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者（原則として都道府県・政令市及びそれらが関わる公益法人や施設の指定管理者は除く）

(2) 開催時期

平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月

(3) 事業内容

登録アーティストを約 1 週間の日程で地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下の事業を実施

①地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募等によるホール内で実施するワークショップ（5～6 回）

*アウトリーチ（3 回以上）

*公募等のワークショップ（1 回以上）

②公演

有料のコンテンポラリーダンス公演（1 回）

③関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む）の学校等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ（1 回）

(4) 研 修 会

①全体研修会（入門編）

日 時：平成 24 年 11 月 13 日（火）～14 日（水）

場 所：東京芸術劇場

内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方等についてのノウハウの提供

②全体研修会（アーティストプレゼン編）

日 時：平成 25 年 1 月 7 日(月)～8 日(火)

場 所：東京芸術劇場

内 容：事業の実施にあたっての企画・制作の進め方等の実践的ノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

③現地下見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、コーディネーター及び登録アーティスト等を現地に事前に派遣

(5) 費用負担

地域創造と開催地の市町村等が負担する主な経費区分

1) 地域創造が負担する経費

①地域交流プログラム、公演及び関係者向けワークショップ

a) 登録アーティスト(ソロ又はデュオ。ソロの場合はアシスタント 1 名まで負担可能)の派遣に係る経費

公演出演料(1 回)、地域交流プログラム(5～6 回)及び関係者向けワークショップ(1 回)講師料、宿泊費及び日当(6 泊 7 日以内)、現地移動費を除く交通費(往復 1 回分)、出演者に係る損害保険料

*関係者向けワークショップに係る交通費は、現地下見(個別研修)に係る経費に含む。

b) 公演に係る共演者の派遣に係る経費(1 名まで)

c) テクニカルスタッフ等(公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名まで)の派遣に係る経費

②現地下見(個別研修)

コーディネーター及び登録アーティスト(最大 2 回まで)、並びに必要と判断されたテクニカルスタッフ等(1 回まで)の派遣に係る経費

2) 開催地の市町村等が負担する主な経費

上記 1) 以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費(舞台・音響・照明などに係る経費)、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の市町村等 共催：財団法人地域創造

3 平成 25 年度コーディネーター

コンテンポラリーダンスの公演やワークショップに精通した専門家。
企画から実施まで担当となった実施団体のサポートを行う。

佐東 範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表）

志賀 玲子（プロデューサー）

堤 康彦（NPO 法人芸術家と子どもたち代表）

菊丸喜美子（プロデューサー）

花光 潤子（NPO 法人魁文舎代表）

平岡 久美（Dance in Deed!代表）

4 平成 25 年度登録アーティスト(五十音順、ソロ・デュオ順)

登録アーティストは全国公募の選考会により選ばれた 7 組 10 名。

登録期間は 2 年間（平成 25・26 年度）



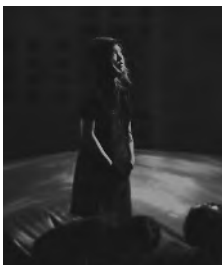
田畑真希 ©松本和幸

3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トッシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を追求するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等さまざまな表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始め、横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マズダンザ賞」をダブル受賞。自身の主宰カンパニー「タバマ企画」を立ち上げ、国内外で精力的に活動中。



田村一行 ©松田純一

1998 年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である鷹赤児に師事。緻密な振付で構成する作品は、新たな舞踏の可能性を示し注目されている。2008 年、文化庁新進芸術家海外留学制度により、フランスのジョセフ・ナジのもとへ留学。舞踏の特性を生かしたワークショップは幅広く好評を博している。演劇作品などへの客演も多数。第 34 回舞踊批評家協会賞新人賞受賞。



矢内原美邦

ニブローラ主宰。日常の身ぶりをモチーフに現代の空虚さや危うさをドライに提示するその独特の振付は国内外での評価も高い。2009 年日本ダンスフォーラム大賞受賞。演劇、劇作にも挑戦し、『前向き！タイモン』で第 56 回岸田國士戯曲賞を受賞。またアート作品の制作・展示を off-Nibroll 名義で活動し、世界各地の美術展にも招聘されている。



山賀さくろ ©小熊栄

幼少からからだを動かすのが好きで、高校在学中は器械体操部に所属。ダンスを始めたのは 25 歳の時で、わりと遅めのスタート。2002 年、43 歳にして JCDN「踊りに行くぜ!!」で突如全国デビュー。一步一步を確実に、マイペースな長距離ダンサー。そのいい具合に力の抜けたダンスは、老若男女、世代を問わず魅了する。



赤丸急上昇(赤松美智代+丸山陽子) ©Tadashi Miyamoto

2005 年に赤丸急上昇結成。みかんの国のコンテンポラリーダンサー。お面を被って結婚式や宴の席にも出没。漫画みたいなダンスを身体を使い切って踊る肉体派。これまでに国内外 10 都市以上で作品を上演してきた。その他、車いすダンスへの振付や、知的障害者施設での楽しいダンスプロジェクトを行うなど、日々活動中。愛媛大学非常勤講師。



坂本公成+森裕子 ©Toshihiro Shimizu

京都のダンスカンパニー Monochrome Circus を率いる二人は、日本でのコンタクト・インプロヴィゼーション指導の第一人者でもある。「掌編ダンス集」と銘打った大小の作品群をはじめとする多くのレパートリー作品を、国内のみならずヨーロッパをはじめアジア、アメリカなど世界各地で上演しているほか、「瀬戸内国際芸術祭 2010」での『直島劇場』などサイトスペシフィックな作品も創作。



勝部ちこ+鹿島聖子 ©C.I.co.

二人は、コンタクト・インプロヴィゼーショングループ C.I.co.(しーあいしーおー)を主宰する。「ふれあう事から始まるダンス」として、国内外各地でのワークショップや公演、国際フェスティバルの開催等を行ってきている。保育園、小学校、大学、公共ホール、企業の研修・採用試験の面接 WS などでも活動を行い、CI をベースに「コミュニケーション」「身体」「社会性」について研究を続けている。

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

【基礎知識編】

1 期 日

平成 24 年 11 月 13 日（火）～14 日（水）

2 会 場

東京芸術劇場 地下 2 階 リハーサルルーム

3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップと作品に触れ、理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。

4 プログラム内容及びスケジュール

11 月 13 日（火）

時間	会場：リハーサルルーム L・M3
14:00～14:15	開講式・オリエンテーション
	着替え・休憩
14:30～17:30	セッション①「コンテンポラリーダンス・ワークショップ&デモンストレーション」 講 師：鈴木ユキオ／安次嶺菜緒（アシスタント）
	休 憩
17:45～19:15	セッション②「フィードバック～ワークショップ&デモンストレーションの振り返り～」 講 師：鈴木ユキオ／安次嶺菜緒 コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美

11 月 14 日（水）

時間	会場：リハーサルルーム M3
10:00～12:00	セッション③「ダンスの広報を考える」 講 師：コーディネーター 志賀玲子（進行）、佐東範一、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
	休 憩
13:00～13:30	セッション④「ダン活事業概要」 説 明：地域創造
13:30～15:00	セッション⑤「ダン活アウトリーチ&ダンス制作の留意事項」 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）堤康彦（アウトリーチ）、志賀玲子（ダンス制作）、 菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
	休 憩
15:15～16:15	セッション⑥「フィードバック～研修会を振り返って」 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
16:15～16:30	事務連絡・閉講式

【アーティストプレゼンテーション編】

1 期 日

平成 25 年 1 月 7 日（月）～8 日（火）

2 会 場

東京芸術劇場 地下 2 階 リハーサルルーム

3 目 的

- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

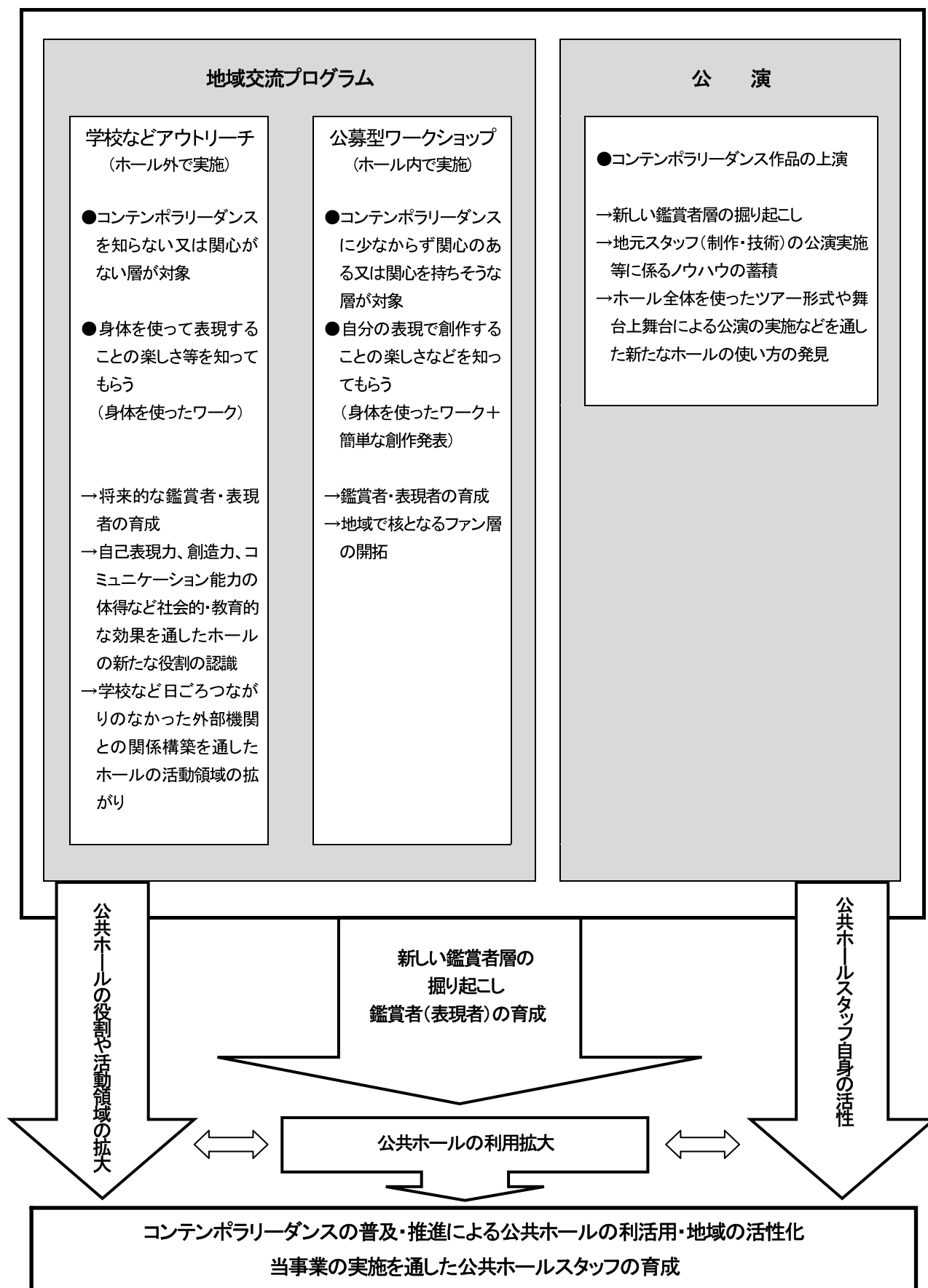
4 プログラム内容及びスケジュール

1 月 7 日（月）

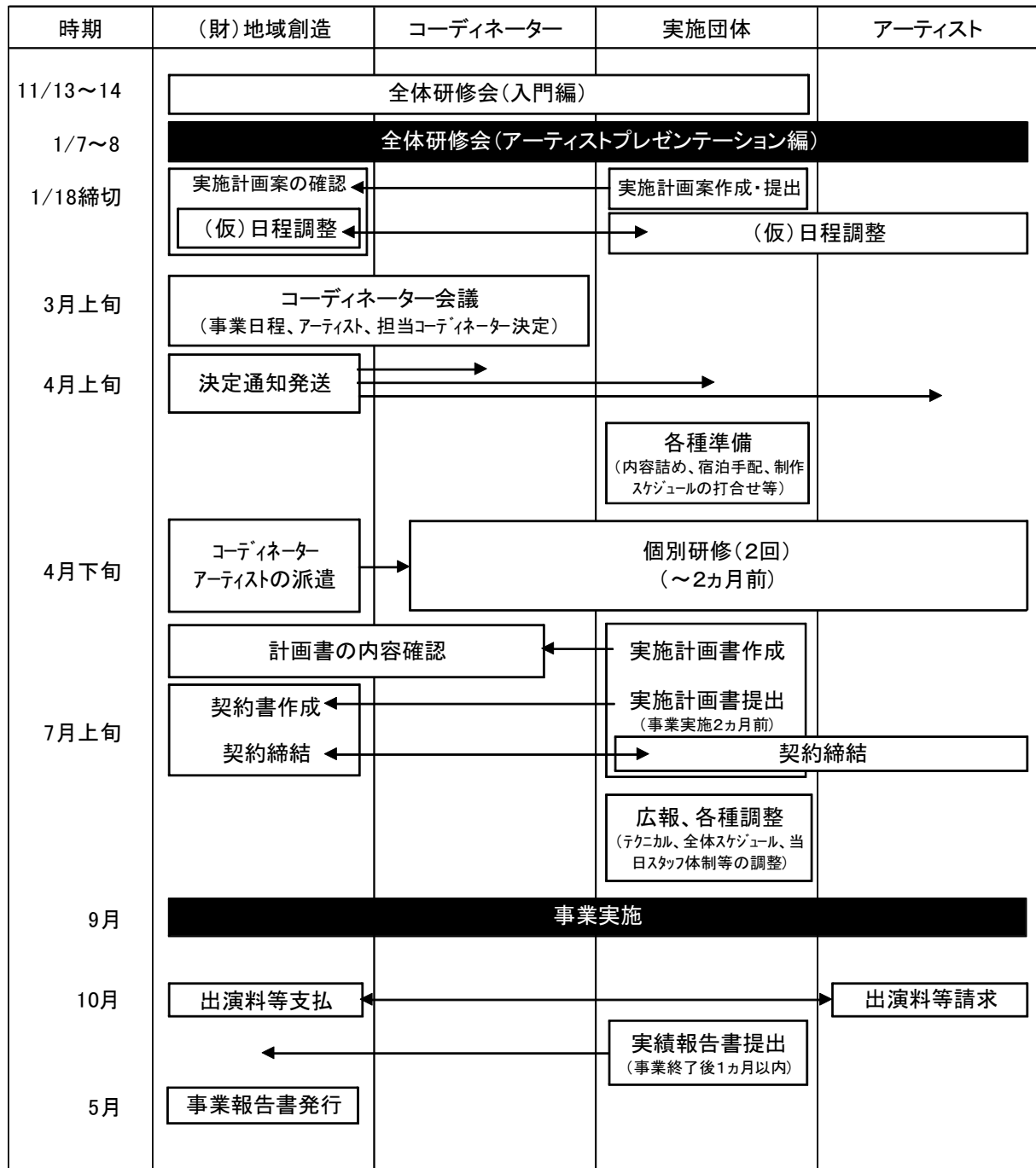
時間	会場：リハーサルルーム L・M3
14:30～15:00	オリエンテーション
休 憩	
15:15～16:20	プレゼンテーション（登録アーティスト 2 組 3 名）
休 憩	
16:30～17:35	プレゼンテーション（登録アーティスト 2 組 3 名）
休憩・移動	
17:50～19:20	交流会（情報交換会）

1 月 8 日（火）

時間	会場：リハーサルルーム L・M3
10:30～11:35	プレゼンテーション（登録アーティスト 2 組 2 名）
休 憩	
11:45～12:15	プレゼンテーション（登録アーティスト 1 組 2 名）
休憩・移動	
12:30～14:00	昼食会（情報交換会）
休憩・移動	
14:10～16:40	フィードバック～プレゼンを振り返って 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
16:40～16:50	事務連絡・閉講式



事業の流れ(9月実施のケース)



実 施 内 容 紹 介

（実施日程順）

朝倉市総合市民センター ピーポート甘木（福岡県朝倉市）

近江八幡市文化会館（滋賀県近江八幡市）

酒田市民会館 希望ホール（山形県酒田市）

成田国際文化会館（千葉県成田市）

小田原市民会館（神奈川県小田原市）

櫛のホール（千葉県野田市）

富山市民プラザ（富山県富山市）

多可町文化会館 ベルディーホール（兵庫県多可町）

朝倉市総合市民センター ピーポート甘木 実施データ

実施団体	朝倉市
実施ホール	朝倉市総合市民センター ピーポート甘木
実施期間	平成 25 年 7 月 9 日(火)～7 月 15 日(月)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 アシスタント：塩谷智司 共演者：小田直哉 テクニカルスタッフ等：若羽幸平
コーディネーター	平岡久美
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 5 月 10 日(金) 19:00～21:00、アウトリーチ先関係者・ホールスタッフ他、16 名、多目的ホール ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 7 月 10 日(水) 10:20～11:55、朝倉市立朝倉東小学校、3・4 年生、43 名、会議室 ② 7 月 10 日(水) 14:00～15:30、朝倉市立志波小学校、5・6 年生、21 名、廊下 ③ 7 月 11 日(木) 10:00～11:30、上秋月コミュニティ、サークル+地域住民、27 名、講堂 ④ 7 月 11 日(木) 18:00～20:00、(株)九州柴田フォージング、社員、15 名、女性センター軽運動室 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 7 月 9 日(火) 19:00～21:00、小学生以上、無料、25 名、中ホール ② 7 月 10 日(水) 19:00～21:30、小学生以上、無料、18 名、中ホール ※2 回連続	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『風のしわざ』 ■ 7 月 14 日(日) 15:30 開演(15:00 開場) ■ 一般 1,800 円、高校生以下 1,000 円(当日 200 増) ■ 朝倉市総合市民センター ピーポート甘木 中ホール ■ 99 名	
 	

スケジュール

福岡県朝倉市／朝倉市総合市民センター ピーポート甘木

	下見①			下見②	
	4/9(火)	4/10(水)		5/10(金)	5/11(土)
9:00					サウンドチェック
10:00		市長挨拶 邪馬台国まつり 打合せ			打合せ
11:00		平塚川添遺跡公園 見学			邪馬台国まつり 出演
12:00	アーティスト等到着			アーティスト等到着	
13:00				朝倉東小学校 下見	
14:00	打合せ	秋月コミュニティ下見			打合せ
15:00	↓			志波小学校 下見	↓
16:00	九州柴田フォーミング 下見			テクニカル 打合せ	↓
17:00		アーティスト等帰京		↓	アーティスト等帰京
18:00				↓	
19:00	交流会			インリーチ	
20:00				↓	
21:00				交流会	
22:00					

	実施期間						
	7/9(火)	7/10(水)	7/11(木)	7/12(金)	7/13(土)	7/14(日)	7/15(月)
9:00							
10:00		朝倉東小学校 アウトリーチ	上秋月コミュニティ アウトリーチ	舞台作業	アップ	アップ	アーティスト等 帰京
11:00		↓	↓	↓	場当たり	通し稽古	
12:00	アーティスト等 到着		フィードバック 交流会	共演者 朝倉入り	↓	ダメだし・確認	
13:00	教育長挨拶	フィードバック			↓		
14:00	打合せ	志波小学校 アウトリーチ		明かりづくり	確認	公演準備	
15:00	↓	フィードバック	LOVE FM 収録	↓	テクリハ	公演	
16:00	位置決め			↓	ダメだし・直し	↓	
17:00	↓			↓		バラシ	
18:00	↓		九州柴田フォーミング アウトリーチ			↓	
19:00	公募 WS①	公募 WS②	↓	場当たり	ゲネプロ		
20:00	↓	↓	フィードバック	↓	ダメだし・直し		
21:00				↓	↓		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

学校側の希望で3年生・4年生合同での実施となった。参加人数が多いこともあり、途中で集中できない生徒が現れはしないかとの不安もあったが、子どもたちは最後まで集中して取り組んでいた。

呼吸を合わせたのジャンプに始まり、身体力を抜くことや、うごかされる感覚を味わうなど、子どもたちにとって初めての体験だったが、それぞれ田村さんの言葉を理解し、楽しみながら取り組んでいる様子だった。

先生からは、「普段は集中できない特別支援学級の子どもがWSに関心を示し、落ちついて参加できたことに驚いた。」「単発の事業に終わらずに続けて実施してもらいたい。」等の意見があった。

7月10日（水）10:20～11:55

朝倉市立朝倉東小学校 3・4年生 43名



●アウトリーチ②

全校生徒数44名の少人数校の5・6年生合同での実施となった。高学年という事もあり、恥ずかしさから自分の殻が破れない子も数名いたが、ほとんどの生徒が田村さんの話やパフォーマンスに引き込まれ、それぞれが頭を空にして、自由な表現を楽しんでいた。中には大人には考えつかない表現をする子どももいて、見ている者も非常に盛り上がった。

先生からは「子どもたちがとても良い顔になっていた。」「子どもにとっての踊りのイメージが変わるきっかけになった。子どもたちなりに、舞踏の世界に少し踏みこめた気がしてよかった。」等の意見があった。

7月10日（水）14:00～15:30

朝倉市立志波小学校 5・6年生 21名



●アウトリーチ③

コミュニティで定期的に運動をしている高齢者の方を中心に、同じ集落の方に集まっていたでの実施となった。

70代以上の方がほとんどで、中には足が不自由な方もあったが、椅子に座った状態で参加してもらった。

田村さんの魅力にひきこまれ、参加者はだんだんとリラックスしながら身体力を抜いていき、最後の「頭を空にして空気をさわる」という体験をした際にはそれぞれが自分の世界を表現し、まるで舞踏を実践しているかのような印象を受けた。

参加者からは「力の抜き方がわかり、身体が軽くなり気持ち良かった」等の感想があった。エアコンがない中、全員の方が最後まで集中して取り組まれ、大変よかった。

7月11日（木）10:00～11:30

上秋月コミュニティ サークル+地域住民 27名



●アウトリーチ④

事業所や工場で働くなかでは日常の工程やルールに基づき業務を行う必要があることから、その人の個性を出しづらいことや、業務外でのWSを通じてより良好な人間関係を築いてもらいたいとの思いからアウトリーチ先として選定した。22～54歳という比較的若い年齢層で、海外出身の方の参加もあった。

普段あまり交流が無い方が多かったが、WSが進むにつれお互いに打ち解けていき、最後にはそれぞれのコミュニケーション能力が上がり、全体がひとつになった感じがした。

参加者からは、「仕事においても力を抜いたらより発想力が増すと思った。」「風をさわるといふとき実際に冷たくなったように感じおもしろかった」などの感想があった。

7月11日（木）18:00～20:00

㈱九州柴田フォージング 社員 15名



●公募型ワークショップ①

対象を小学生以上とし、2日間にわたるWSを実施した。

応募者の年齢は8～61歳と幅広く、車椅子の方の参加もあった。市外を含め定員を超える応募者があり、すべての方を対象に実施することになった。

1日目は身体の力をぬく体操にはじまり、緊張と弛緩のポーズなどでからだを動かしたあと、舞踏の歴史などについての話を聞き、その後に「動くのではなく、動かされる」という表現方法を実践していった。初心者から経験者まで様々な参加者となったが、それぞれが普段経験することのないおどりに没頭している姿が印象的だった。

7月9日（火）19:00～21:00

朝倉市総合市民センター 小学生以上 25名



●公募型ワークショップ②

2日目は前日に体験した脱力とイメージの方法をもとにして、さらに一歩踏み込んだ内容で、かなりハードなものだった。自分の意思で動くのではなく「動かされる」ことを学んだ参加者は、全体の振り付けを短時間で覚え、約5分間の作品へと仕上げていくのだが、参加者の集中力が途切れる事はなかった。最後には実際に参加者が舞台上で披露し合い、田村さんの熱のこもった指導もあり最終的には時間オーバーするほどだった。

参加者の感想は「すばらしかった」「時間が足りなかった」「一流の舞踏手の方々に指導してもらえて幸運だった」等が大半であり、手ごたえを感じることができた。

7月10日（水）19:00～21:30

朝倉市総合市民センター 小学生以上 18名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先の先生や事務局長などの関係者、舞台スタッフ、ホール職員が参加した。ワークショップ未経験の者がほとんどで、最初はどのように動いてよいのかわからず、脱力することに苦戦している様子だったが、徐々にリラックスしていき、力をぬくことが体験できたようだった。

実際に田村さんの話を聞くうちに、ワークショップに対する不安要素は払拭された様子で、「新鮮な体験だった」「子どもたちには是非体験してもらいたい」等の意見があがった。

5月10日（金）19:00～21:00

朝倉市総合市民センター

アウトリーチ先関係者・舞台スタッフ他 16名



地域交流プログラム内容

7月11日(木) 熊本県九州柴田フォーミング 社員

●息をあわせてジャンプ

円になり、まず一人ずつジャンプし一周したあと、二人ずつ、三人ずつと一緒に飛ぶ人数を増やしていく。成功すれば最後には全員でジャンプできるというもの。目で合図をしながら呼吸を合わせてジャンプするうちに、互いにうちとけて、一体感が増す。

●ストレッチ・脱力

まず、部分ごとの伸ばし方を教わる。アキレス腱など、今まで行ってきた方法と全く違うことも。次に脱力をする。自分が水袋になったイメージで2人1組になり体を揺らしたり、揺らしてもらったりする。力をぬく気持ちよさを味わう。

●ピンポン玉が背中を動いて行くイメージで

四つん這いになってピンポン玉がお尻から背中を通り背中を縦横無尽に動き回るイメージで動く。

●声をかけながらキャッチボール

「投げた!」と叫び、相手にアイコンタクトしながらボールを投げ、受け取った人は「取った!」と叫びながら、別のの人に投げる。これを繰り返し、ボールを増やしていき、ボールに人が動かされる感覚を味わう。

●空洞になってみる

自分の形をした空洞になり、空気の味、音、においを感じる。その空気がゼリーになり、さらにとっても冷たいゼリーになった感覚を味わう。まるで、参加者全員が舞踏手になったように見えた。

●デモンストレーション

舞踏とはどんなものか、田村さんらによるデモンストレーションを見る。さらに馬が歩く、鞭をうつ、馬が暴れる等の動きについて詳しく見せてもらう。皆、踊りの迫力、芸術性の高さに圧倒された様子だった。



公演

『大駱駝艦・田村一行 舞踏公演「風のしわざ」』

【演 目】『風のしわざ』

【日 時】7月14日(日) 15:30 開演

【出 演 者】田村一行 塩谷智司 小田直哉

【入場料金】一般1,800円 高校生以下1,000円
(当日各 200 円増)

【会 場】朝倉市総合市民センター ピーポート甘木
中ホール

【入場者数】99 名



朝倉市では現代ダンス公演そのものが初の試みであることから、いかにして市民に関心を持ってもらうかが第一の課題であった。そこでインパクトがありながら普遍性を備えた大駱駝艦・田村一行さんの作品であれば幅広い層の観客を惹きつけられると考え、上演を希望した。

広報の取組としては、市民にまず「舞踏」に触れてもらうために田村さんにお申し、2 回目の下見の日程を市民祭りに合わせ、会場において 20 分程度のデモンストレーション公演と PR を実施した。この祭りを始めとし、市報、フェイスブック、フリーペーパー、地元 FM 局での放送、各種イベントへの折り込みなど、様々な手段を使って広報活動を行った。思ったほどの観客動員にはなかなか繋がらなかったが、市民には、一定の情報を浸透させることができたと思う。

公演では田村さんが朝倉市を訪れた際に浮かんだイメージを取り込んだオリジナル作品「風のしわざ」を上演して頂いた。取り組み当初から、どのような作品に仕上がるのか非常に楽しみであったが、期待以上の素晴らしい作品で、公演では多くの観客の心を掴んでいた。初めて舞踏公演を観た観客からは「初めて舞踏に触れたがすばらしい、心の奥底がゆさぶられるようで涙があふれた」等、多くの感想が寄せられた。公演後のアーティストトークでは出演者と観客とがお互いに身近に感じられる機会になった。質問票を作り、答えて頂く事で、公演とはまた違った出演者の一面を垣間見ることができたのではないかなと思う。また、ホール初の試みとして公演のボランティアスタッフを募集し、事前の広報活動、当日の受付、影アナ、後片付け等をお願いした。参加者からは「ひとつの舞台が作り上げられる過程が理解でき良かった」「興味のある事で、普段は出会えない人とつながれるのが嬉しい」等の感想があり、ホールと市民とが一步近づく機会を作れたのではないかなと思う。

●この事業への応募動機

これまで当館では鑑賞型の事業が多かったことから、アウトリーチやワークショップなどの参加型の事業を実施し、新しい観客層を呼び込み、多くの市民にホールをより身近な存在としてとらえてもらう機会にしたいと考えて応募した。

現代ダンスの公演については初めてであり、市民に馴染みのないジャンルであるが、逆にこれまでにない観客層を呼び込むことができると考えた。ジャンルの単独での実施は難しいが、コーディネーターのサポートを受けながら実施することで企画、運営に関するノウハウを学び、今後に生かすことができると考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

地域交流プログラムを通じて、市内各所にアーティストとともに出向いたり、市民にホールへ足を運んでもらったりする中で、アーティストと市民が、あるいはこれまでにホールに足を運ぶことのなかった市民とホールが出会い、新しい発見をし、今までと違った関係を育むきっかけをつくる。また、これまで触れたことのない「舞踏」公演を行うことで、文化芸術に対する市民の関心の幅を広げる。

アウトリーチ先については、普段ホールに足を運ぶことが少ない方の中から、小学校、高齢者（地域のコミュニティ）、企業の3カ所を選定した。ワークショップについては、年齢層をしばらく2日間のプログラムとし、幅広く参加してもらえるようにした。

●企画実施にあたり苦労した点

広報に関しては、実施期間までの短い間に、まず現代ダンス（舞踏）を見て知ってもらうことが必要と考え、市民祭りでデモ公演を、その後はラジオ出演やフェイスブック書き込みなど、思いつく限りの活動を行い、集客に結び付いた部分はあるが、思ったような成果を出すことができなかったのが残念であった。

アウトリーチ先の選定に関しては、小学校とコミュニティでは複数の申出があり選ぶのに苦労したが、逆に企業では14社への働きかけを行ったにもかかわらずなかなか賛同が得られず、社長と直接面談できた1社からようやく承諾を得て実施することができた。

●事業の成果

地域交流プログラム、公演共に参加者（観客）の評価は非常に高かった。特にアウトリーチでは、どの参加者も田村さんの魅力に引き込まれながら、楽しい時間を共有し、最後には舞踏の世界や表現する事へ一歩足を踏み入れているようだった。この事業により今までホールに足を運んだことのなかった沢山の市民が交流し、現代ダンス（舞踏）に触れることができたと思う。ホール職員もアウトリーチの準備・実施や広報活動で市内各所をまわるなかで、地域とかかわる機会をもつことができ、その重要性を再確認した。

●反省点、今後の課題と事業展開

何もわからず始まったダン活だったが、アーティストやコーディネーターと打ち合わせを重ねていくなかで、少しずつ意図が明確になっていき、最後には形にすることができた。この事業で得たノウハウを生かし、市民とのつながりの芽生えを無駄にせず、今後も地域住民参加型の事業を継続して実施していきたい。

●この地域のダン活の特徴

「市民に優れた芸術作品に触れてもらう」「新たな観客層の呼び込みを図る」事を目的とした朝倉市のダン活は、ご担当：林さんと文化課スタッフが驚きと衝撃を受けた大駱駝艦舞踏手の田村一行さんをアーティストとして、H25年度のトップをきって7月に開催された。新年度スタートから事業実施まで約3ヶ月しかなかったが、2月実施決定直後、ご担当からのメール発信から5日のうちに朝倉ダン活企画概要案と事業実施に向けてのスケジュールが提出され、下見2回の日程も決定、濃密なやり取りが始まった。その後は、3月：内容決定、ポスター完成、4月：広報開始、第1回下見、チラシ完成、アウトリーチ先決定、5月：チケット発売、第2回下見とインリーチ+PRとして市民祭りでのデモンストレーション、報道用資料完成となり、7月の事業実施を迎えた。

アウトリーチ：市内企業の従業員、小中学校生徒、高齢者サークルを対象として開催。団体のプロフィール、志望動機、インタビュー内容、選定したい理由等が記されたアウトリーチ先情報シートは、実施先決定に有効活用された。このような情報を更に充実させ、今後の事業でも活用されるものと思う。

ワークショップ：新たな観客層となりうる人々をホールへ呼び込む仕掛けとして、当初は、誰でも参加可能なワークショップの他に、若い年齢層をターゲットとして、ダンスを通じた出会いの場を提供する未婚の男女を対象としたワークショップ、家族間コミュニケーションの構築を手助けするとして親子のワークショップが企画されていたが、参加したいと思う方々に広くこの機会を提供することとして、対象を限定しないワークショップに絞り、2日間のワークショップを行った。

公演：邪馬台国甘木・朝倉説のある朝倉の風土を取り込んだ舞踏公演「風のしわざ」。地元の方々に、舞台芸術の鑑賞を通して、朝倉やその地域についての世界観を再発見する機会となったのではないだろうか。公演終了後は、鑑賞にとどまらない交流の機会を持ち、出演者によるトークとロビーでのご来場者お見送りを行った。また、地元以外に広報を行った成果もあり、遠方からのご来場も多数あった。

新しい試み【ホールfacebookの活用】：公演情報やアーティスト滞在レポート（市長表敬訪問、市民祭り参加、アウトリーチ、ラジオ出演等）の他、ポスター掲出協力先を写真・コメント付きで紹介。今、改めてこのページを見てみると、まだ認知度は高くはないが、ホールが身近になる環境作りのひとつとして、ホール外での活動・地元の方々との出会いを記録する広報ツールとしての役割を果たしている事が分かる。

新しい試み【ボランティアスタッフの募集】：地元の方々とのパートナーシップを図る第1歩として本番運営サポーターを募集。事前研修として2日間のワークショップにも参加頂き、終了後にはフィードバックの時間を設けた。この機会を新たな市民との協働関係の構築に役立てていただきたい。

●課題とこれからに向けて

何をもって目標達成とするか。単年度開催のダン活事業の成果としては、参加者・来場者人数を数値で表すことが1つの目安となるが、今回地元の方々との出会いから得た（顔の見える）人的財産も成果と言えるのではないだろうか。時間も手間もかかり、一見遠回りのようではあるが、次なる一歩として、鑑賞型事業以外でも人びとの感性に触れる活動を展開・継続し、地元の方々とのコミュニケーションの機会を広げることによって、文化芸術を様々な形で身近なものにするホールのファンづくりに繋げていただきたい。

近江八幡市文化会館 実施データ

実施団体	近江八幡市
実施ホール	近江八幡市文化会館
実施期間	平成 25 年 9 月 10 日(火)～9 月 16 日(月)
アーティスト等	アーティスト：勝部ちこ+鹿島聖子 共演者：Rico（ピアニスト） テクニカルスタッフ等：前原秀俊
コーディネーター	佐東 範一
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 6 月 5 日(水) 18:00～19:30、会館関係者、10 名、大ホール舞台上 ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 9 月 10 日(火) 16:00～18:00、滋賀県立八幡商業高等学校、演劇部生徒・教員、21 名、セミナーハウス ② 9 月 11 日(水) 8:50～ 9:40、近江兄弟社高等学校、2 年生、15 名、教育会館 *ダン活枠外 ③ 9 月 11 日(水) 9:50～10:40、近江兄弟社高等学校、2 年生、25 名、教育会館 *ダン活枠外 ④ 9 月 12 日(木) 9:30～10:30、近江八幡市立沖島幼稚園・小学校、全校児童・教員等、15 名、体育館 ⑤ 9 月 12 日(木) 15:45～17:00、近江兄弟社高等学校、単位制課程クラス、27 名、教育会館 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 9 月 11 日(水) 19:00～21:00、子ども～99 歳、無料、10 名 ② 9 月 12 日(木) 19:00～21:00、子ども～99 歳、無料、9 名 ③ 9 月 13 日(金) 19:00～21:00、子ども～99 歳、無料、9 名 ※3 回連続	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『即興創作 ダンスと音楽と光のコラボレーション～未来に向けて創造的な作品をこの場で創る～』 ※公演前に、公開ワークショップ・地域の NPO 法人等による活動プレゼンテーション、公演後にディスカッションを実施。 ■ 9 月 15 日(日) 14:00 開演 (13:30 開場) ■ 大人 1,000 円 (当日 1,500 円)、高校生以下 500 円 (当日 1,000 円) ■ 近江八幡市文化会館 大ホール (舞台上舞台) ■ 32 名	
	

スケジュール

滋賀県近江八幡市／近江八幡市文化会館

	下見①	
	4/24 (水)	4/25 (木)
9:00		打合せ
10:00		↓
11:00		↓
12:00	アーティスト等到着	市内見学
13:00	ホール下見	↓
14:00	八幡商業高校 下見	↓
15:00	↓	近江兄弟社高校 下見
16:00	↓	
17:00		NPO 法人訪問 打合せ
18:00	交流会	
19:00	↓	アーティスト等帰途
20:00	↓	
21:00		
22:00		

	下見②		
	6/5 (水)	6/6 (木)	6/7 (金)
		沖島小学校 下見	地元活動家 聞取③
		↓	↓
		地元活動家 聞取①	打合せ
アーティスト等到着			
打合せ	DJ 打合せ	打合せ	
↓	↓	↓	↓
		地元活動家 聞取②	
↓	↓	↓	↓
			↓
インリーチ			アーティスト等帰途
交流会			

※下見②: 1 日分はダン活枠外

	実施期間						
	9/10 (火)	9/11 (水)	9/12 (木)	9/13 (金)	9/14 (土)	9/15 (日)	9/16 (月)
9:00		近江兄弟社高校 アウトリーチ	沖島幼稚園小学校 アウトリーチ				
10:00		↓	振り返り		安土文芸 セミナー見学	ウォーミングアップ	
11:00		振り返り			太鼓教室見学	舞台通し	アーティスト等送り
12:00					リハーサル 調整	昼食・打合せ	
13:00	出迎え			共演者・DJ 出迎え		開場	
14:00	日程説明	葭留見学				開演	
15:00		打合せ	近江兄弟社高 アウトリーチ			↓	
16:00	八幡商業高校 アウトリーチ	↓	↓			終演	
17:00	↓		振り返り			撤収	
18:00	移動				↓	↓	
19:00	意見交換会	公募 WS①	公募 WS②	公募 WS③			
20:00	↓	↓	↓	↓			
21:00							
22:00							

事業概要

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

文化会館の敷地内を通学生徒が通り、会館の利用もある八幡商業高校で実施した。体育出身の校長先生が積極的で、初めは体育の授業でと思ったが、学年全体での実施は難しいため、放課後、演劇部員を対象として実施することになった。

会場はセミナーハウス 2 階の和室で、参加生徒は女子 17 名、男子 1 名、見学 1 名の内訳であった。校長先生、顧問の先生が見学され、若い女子教員 2 名の方も参加された。そのうちの先生一人と子供さんは、最終日のワークショップにも参加された。

9 月 10 日（水）16:00~18:00

滋賀県立八幡商業高等学校 演劇部 21 名



●アウトリーチ②③⑤ ※②③はダン活枠外での実施

兄弟社高校も会館をよく利用されている。

普通科学年制課程では、初め 2 年生女子全員の体育授業として人数が多かったが、希望者を抽選してもらい人数をしぼって実施した。1 時間目の女子は素直でやりやすかったが、2 時間目の生徒はアーティストの指示を聞いてくれたが、少しだらけた雰囲気になった。

普通科単位制課程は、登校拒否を経験した生徒を含むクラスで、学び直しをしている子供たちである。耳をすましたり、息をゆっくり吐いたりすったりする一人の活動をゆっくり行い、二人でのダンスにゆっくり入っていった。

振り返りでは、担任の先生から今の高校生は、他人と身体をふれあうことをいやがる傾向があると聞いた。

9 月 11 日（水）①8:50~9:40 ②9:50~10:40

9 月 12 日（木）③15:45~17:00

近江兄弟社高等学校 ①2 年生 15 名 ②2 年生 25 名

③単位制課程クラス 27 名



●アウトリーチ④

朝早くに会館に集まっていただき、通船でびわ湖に浮かぶ沖島に行った。アーティストの一人、鹿島さんは以前にも催しで訪れたことがある。自己表現力をつけたいというのが校長先生の希望であった。

体育館で実施した。園児 4 人と生徒 8 人のほか校長先生も含め先生方も参加された。年齢層が広く、園児は参加したり、しなかったりで、やりにくいところがあった。

柔軟体操の後、二人組で行う活動から入った。先生方によるサーフィンは面白かった。

子どもたちと先生との親密さが感じられた。5、6 年生の子が先にやって見本を見せるようなやり方も良かったのではという反省だった。

9 月 12 日（木）9:30~10:30

近江八幡市立幼稚園・小学校 園児・児童・教員 15 名



●公募型ワークショップ①

当初参加される人が少なく心配したが、結果的に踊ってみたいという方に集まっていた。プレゼンテーションに出演する方にも参加を呼びかけ、全日ではないが参加された。赤ちゃんと同伴されて参加されたお母さん、小学生をはじめ多彩な顔ぶれになった。

全員で輪になって。一回手を叩く。相手に送る。隣へ、反対方向へ、誰でも。拍手を送ってその方向に走る。

二人で名前を呼び合う。

二人組、一人がポーズ、もう一人がその中に入ってポーズ。(もうダンスになっている。)

背を合わせて椅子になる。いろんな背中で確かめてみる。
クールダウン

9月11日(水) 19:00~21:00

近江八幡市文化会館 子ども～99歳 10名



●公募型ワークショップ②

自己紹介。固さと柔らかさの話

動詞で表される動きについて。床に対して押す・ころがる・滑る・回る

自身で研究モードに入って、していることをつぶやきながら動く。二人組になり、一人が動き、もう一人が動きを実況中継する。3次元に広げる。人と触れた時に、床と同じような動きが生まれる。言葉で表しながら踊る。(見ていて面白い、なるほどと思う。)

全員で手をつなぎ、ハワイへ瞬間移動。二人組でサーフィン。手で床を押しながら、足で床を押しながら。どんどんやることで慣れる。近江八幡へ戻る。

輪になって座談。シャワー：相手のいろいろな所を触れる。

9月12日(木) 19:00~21:00

近江八幡市文化会館 子ども～99歳 9名



●公募型ワークショップ③

動き続ける。空間を動いてみる。ここまでいってないや。ゆっくりと動きを止める。

話：五感、空間をどんなふうに感じられるか。

目を閉じて耳を澄ませる。サウンドスケープ。

二人組、一人が連れ出す、話せない。もう一人は目を閉じ、話せる。ケアしている状態。

話：信頼関係は深まりましたか。感想を出し合う。「来ていて楽しい。学校の体育ではこんなことはしない。」とは、小学生の声。

上の句ポーズと下の句のポーズ。一人だけ残った姿を鑑賞。下の句の人がどいて完了。自立できるポーズで。交代で。

一人の動きを全員が鑑賞。別の人が別の場所で踊り鑑賞する。もうダンス。最後に感想を出し合う。また、やりたい。

9月13日(金) 19:00~21:00

近江八幡市文化会館 子ども～99歳 9名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先の先生にも参加を呼び掛けたが、忙しく実現しなかった。会館職員、舞台技術スタッフ、市役所職員等に声をかけて集まってもらった。

全員が、ダンスがどんなものか体験できた。技術スタッフの方は見学だったが、特に照明担当は全体のイメージがつかめたようだった。

6月5日（水）18:00～19:30

近江八幡市文化会館 ホール関係者他 10名



地域交流プログラム内容

9月10日（火） 滋賀県立八幡商業高等学校 演劇部

●導入部分

アーティストの自己紹介、コンタクト・インプロビゼーションの言葉の意味を説明。演劇部の活動での悩みを聞く。

●身体をほぐす(まず一人で)

中指を伸ばす。指で頭や顔をマッサージ。
うろろ歩く。好きな所で止まる。

●他の人との関係をだんだん結ぶ

ぶつからないように歩き回る。後ろ向きに歩き回る。
軽くランニング。全員と握手。
ゆっくり歩く。目と目があったらとろけるように倒れる。

（説明）笑って、身体を柔らかく。目が圧力。

二人組で。リーダーとフォロワーになり、片手で握手。もう片手は経路を工夫して相手の手に触れる。2人から4人へ。全体を巻き込むように進む。「楽しい」という声

●全員で

目をつむり全員で輪になって飛び、ハワイへ瞬間移動。
サーフィン：2人組。波とサーフィンになり交互に身体の上をころがる。

キャッチお魚：ハワイの魚を捕まえた。身体の中で魚を動かす。好きな所から出す。相手がキャッチして同様に繰り返す。

（説明）丁寧にする。二人から三人へ。

全員で輪になって手をつなぎ、ジャンプ。帰りは1回まわって飛ぶ。

●2 畳

二人組。畳2畳（会場は和室）を使って、一人が好きな場所に正座する。続いてもう一人が相手を意識して別の場所に正座する。以上を繰り返す。

（説明）時間を味わう。間を味わうように。

静かになる。思わず笑える。

●輪になって感想を出し合う

●ふりかえり(先生方と)

2時間集中力があつた。ふだんの稽古も2時間。

生徒は皆すなおで、めずらしい。

2畳には特に集中していた。

ダンスとダンスの間の説明が効果的だった。

男子が一人だったが、はずかしがらずにみんなの中によく溶け込んでいた。



公演

『おどって！文化会館～未来にむけての創造的な生き方を考える～』

【演 目】『即興創作 ダンスと音楽と光のコラボレーション
～未来に向けて創造的な作品をこの場で創る』

*公演前プログラム

①イントロダクション+みんなで身体をほぐそうタイム

②活動プレゼンテーション

*公演後プログラム

ディスカッション

【日 時】9月15日(日) 14:00 開演

【出 演 者】勝部ちこ+鹿島聖子
Rico(ピアノ) 前原秀俊(DJ)

【入場料金】大人1,000円(当日1,500円)
高校生以下500円(当日1,000円)

【会 場】近江八幡市文化会館
大ホール(舞台上舞台)

【入場者数】32名



ダンスの公演だけでなく、市内で未来に向けて活動をされている若い人たちにその活動をプレゼンテーションしてもらうことにした。会館から声をかけ6人の方に発表していただいた。

環境にやさしい商品を販売されている方、ヨシ葺き職人、農業をしている方、日本料理店をされている方、文化会館喫茶店店主、和太鼓奏者の方たち。

大ホール舞台を横に使い、上手側半分を客席、下手半分为舞台にした。舞台は、道具置き場の空間を生かして奥行のある空間になった。さらに、照明を当てることにより、今までにない美しく不思議な空間を演出できた。

C.I.co.の勝部さん、鹿島さんのダンス公演は、2回のリハーサルとはまた違っていた。奥行を活かした公演になった。舞台と客席が同じ平面にあることで、観客も一緒に踊り出すような感じだったという感想を後で聞いた。あつという間の不思議な30分だった。

最後に、コーディネーターの佐東さんの司会で、プレゼンテーション参加者、アーティスト、会館担当者が前にすわりディスカッションを行った。会場からも発言を求め、発表された若い人たちがこのように活動できるのは、その後ろに年長の方の支えがあるからということが分かった。会館の活性化の話では、「喫茶もか」に会館が占領される方が活性化するのではという意見や市民が会館をもっと気にかけることが必要という意見が出た。

広報では、若い人に来場してもらおうと市内の保育園、小中高校や企業に足を運んでチラシを配ってもらった。また、若い人が来そうな会館近くの店舗にもチラシを置いてもらった。

公演パンフレット（A4 両面）

平成 25 年度後援ホール現代ダンス活性化事業
おどって！文化会館
～未来に向けて創造的な生き方を考える～

1. この事業の紹介
今年開催した、第1回、第2回連続2回の公演で、近江八幡市現代ダンス活性化事業「おどって！」です。
「おどって！」という公演には、文化会館でダンスの公演を行うアーティスト、文化会館をダンスで
表現したいという思いが込められています。ダンスアーティストの個性を、観客の心に届けることが
この公演の目的です。また、アーティストと観客が、ダンスを通じて、お互いの考えや思いを交
渉し合う機会を設けました。その中で、お互いの考えや思いが、お互いの心に残ることを目指します。

2. 日 時 平成25年9月16（日）14時～17時（19時30分 開演）

3. 会 場 近江八幡市文化会館ホール 舞台・上舞台

4. プログラム内容

イントロダクション みんなで身体をほぐそうタイム (20分)

活動プレゼンテーション (60分)

- ・村 上 祐 (NPO法人 夢いびく)
- ・真 田 隆 子 (観劇)
- ・渡 津 祐 子 (NPO法人 三島舞)
- ・堀 海 悠 樹 (料理家)
- ・真 田 尚 子 (医学生)
- ・大 橋 亮 介 (和太鼓)

朗読劇作 ダンスと音楽と光のコラボレーション (30分)

～未来に向けて創造的な作品をこの場で観る～

ダンス：CLLO (観劇、村上祐、渡津祐子)

音 楽：Rin (ピアノ) 渡津 祐子 (DJ)

光：村下 薫 舞台・音響・照明：文化会館

ディスカッション (45分)

「未来に向けての創造的な生き方を考える」

モデレーター 堀 海 悠 樹 (ダンサー・コーディネーター)

参加者 渡津祐子、渡津祐子、村上祐、真田隆子、渡津祐子、真田尚子

プロフィール

・CLLO 渡津祐子、真田尚子
ダンス上、より具体的な生活を創り出すべく、新
潟から近江八幡市に移住して1年。近江舞
台から世界を巡るでコンテンポラリーダンスを通して
表現を伝える。渡津祐子、渡津祐子

・Rin
KilomemyよりRinのダンサーとしてデビュー。
その後もRinとの活動を通じて世界の世
界へ。舞臺の活動を通じて自分自身を表現。
音楽活動とダンス活動も行う。

・渡津 祐子
ピアノ・クラシックを学ぶ。音楽家。渡津祐子、渡津祐子
音楽、音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽
活動。音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・村上 祐 (NPO法人 夢いびく)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・真田 隆子 (観劇)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・渡津 祐子 (NPO法人 三島舞)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・堀 海 悠 樹 (料理家)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・真田 尚子 (医学生)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

・大橋 亮介 (和太鼓)

音楽活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動
活動を通じて音楽活動へ。音楽活動

●この事業への応募動機

会館の公演に若い人たちに来てもらいたい。学校の行事でよく会館を利用する高校生を会館に呼びたいというのが最初の動機だった。それと、買い取り公演だけだった会館の事業に、アウトリーチやワークショップを加えたいというのも動機の一つだった。

●事業のねらいと企画のポイント

1 回目の下見で、近江八幡は市民活動が盛んであるという印象から、会館を開放して会館を市民活動の楽市楽座にしようという計画が持ち上がった。ダンスを集まった人たちの交流の手段と位置付けてやってみようということになった。2 回目の下見で、市内で活動されている方に聞いて回ったところ、現在のところ、市民活動をする人たちには 1 か所に集まって交流したいという要望がないこと、また会館の体制も十分でないことから、規模を縮小し、未来に向けての生き方を目指している若い方たちにプレゼンテーションをしてもらうことにした。ただし、公演当日に発表してもらうだけでなく、1 週間を通して、ワークショップに参加してもらったり、活動の現場に出かけて、アーティスト等の方たちと交流を深めてもらうことにした。

●企画実施にあたり苦労した点

1 週間の内容が 2 回目の下見でなんとか決まった。コーディネーターやアーティストから、担当者に何をしたいかを聞かれたが、十分に答えることができなかった。担当として、アーティスト等からの意見を取り入れることで精いっぱい、公演の間際になり、ようやく内容が固まってほっとした。事業を通して担当者の知識不足、経験不足を痛感したが、これが一地方の直営の会館の現状であった。

広報面では、若い人たちにターゲットを絞り、市内の保育園、小中高等学校や企業を訪問してチラシを配ってもらった。若い人が来そうな市内の店舗にもチラシを送り、私鉄の車内吊下げ広告も行った。これらの多くは初めての試みであったが、残念ながら成果には結びつかなかった。

●事業の成果

2 つの高校でのアウトリーチ、びわ湖にうかぶ沖島での幼稚園、小学校合同のアウトリーチを行った。特に、高校では、現代の高校性は人と接触する経験が不足していることや、登校拒否を経験した生徒を相手にする難しさから、図らずも今の教育現場の実情を知ることになった。

3 日間集中ワークショップについては、初め三日間は長いではと思ったが、三日間あることでアーティストの方も参加者も段階を追ってゆっくり進めることができたと思った。途中からの参加者もいたが、3 日目になるとり、なめらかな動きでもうダンスになっていた。子供の参加者が 2 人いたが、大人と違和感なく踊り、「面白い。」という声が何度も聞かれた。

公演では、舞台上舞台を横に使うという初めての取り組みができた。照明担当の苦労もあって不思議な空間を作ることができた。ホールの使命が、ホールと地域を結ぶ仲間作りであるとする、少ない人数ではあるが、確かにホールと地域を結ぶ関係づくりができた。また、ホールに集った人たちの間にも関係づくりができた。それらの今後の発展が期待される。

●反省点、今後の課題と事業展開

会館として、担当者としての姿勢がするどく問われ、考え続けた事業だった。方向は間違っていない、初めて取り組んだ今回の取り組みを絶やさず、続けてみようというのが今の答えである。

●この地域のダン活の特徴

近江八幡市文化会館は、堤さんが書かれているように、これまでワークショップやアウトリーチも主催して行ったことがなく、このダン活が自主事業としても最初の第一歩であった。かつ、担当者としては堤さん一人なので、かなり大変であったと思う。近江八幡は、市民活動の大変盛んな地域であり、世界的に知られているボードレス・アートミュージアム NO-Ma、建築・医療・教育など様々な分野で活躍したウィリアム・メレル・ヴォーリズの記念館や、琵琶湖の水や葦を守る団体など、幅広い市民の活動が行われている。

一方、今回のアーティストであるコンタクトインプロビゼーションの勝部ちこさんと鹿島聖子さんは、長年東京で活動してきたが、2年前から鹿児島県伊佐市に移住し、その地を拠点に、日本全国そして世界で活躍をしている。隣の家まで車で10分ぐらいかかる山の中で生活をしながら、大きく変わったこととして、自分たちで野菜を育てたり、生活することとダンスがとても密接になってきたという話を伺い、近江八幡の食や生活文化、自然環境の市民活動をされている方々と一緒に何かを創れないだろうかという話になった。

堤さんをお願いして、多くの市民活動をされている方にお会いすることが出来た。残念なことに、文化会館があまりにも地元では知られていない、いや知ってはいるのだが、自分たちと関係のある施設だという意識がなかった。そこで、今回のダン活の目的は、そのような市民活動と文化会館をダンスによって繋ぐという壮大なものになった。当初は、楽市楽座というアイデアもあったが、初めから行うのは難しいだろうとなり、ダン活では初めてのことなのだが、地元の市民活動をされている方のプレゼンテーション+ダンス公演+ディスカッションというかなり変則的な最後の公演になった。そして、タイトルは、「おどって！文化会館～未来に向けて創造的な生き方を考える～」という、これまでの文化会館から何かが変わるのだという、挑戦的なものになった。プレゼンテーションでは、琵琶湖の水を考える NPO 法人蒼いびわ湖の村上さん、琵琶湖のヨシを守り、ヨシ葺き職人の真田陽子さん、新しい農業を考え実践する NPO 法人百菜劇場の根津さん、野菜ソムリエの瀬海さん、和太鼓奏者の大橋さん、文化会館に喫茶もかをオープンする真田尚子さんにお話していただいた。この近江八幡というところが、本当に魅力的なところなのだとすることを痛感するとともに、そのような中で、これから未来に向けて文化会館というものは、どのような役割を持っていくのだろうかと考えさせられたダン活であった。

●課題とこれからに向けて

今回のダン活は正直かなり大変だった。それは本当に初めて自主事業を行うことの難しさ、会館としてのスタッフ体制の在り方、市にとっての文化会館の役割など、ある意味、日本の多くの公共ホールというものが抱えている課題が集約されているような気がした。文化会館とは、どのような場所であるべきなのか、誰のためのものなのか、どのような役割を持つべきなのか、など、しっかりと見直す時期に来ているのだろう。担当の堤さんは本当に大変だったと思います。しかし今回行ったことは、これからの文化会館にとって、ひとつの可能性を示したことになったと思います。今回初めの第一歩を踏んだことを、文化会館として、いかに継続していけるのか、ということに尽きると思います。期待しています！

酒田市民会館 希望ホール 実施データ

実施団体	酒田市
実施ホール	酒田市民会館 希望ホール
実施期間	平成 25 年 9 月 24 日(火)～9 月 30 日(月)
アーティスト等	アーティスト：赤丸急上昇 共演者：池内 文 テクニカルスタッフ等：長井雅浩（映像）
コーディネーター	花光潤子
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 6 月 30 日（日）17:30～19:00、希望ホール自主事業企画運営委員会グループ員・アウトリーチ先教員、21 名、練習室 1 ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 9 月 24 日（火）15:15～17:00、酒田市立琢成小学校、教職員、20 名、体育館 ② 9 月 25 日（水）10:10～11:10、酒田市立南遊佐小学校、5・6 年生、20 名、体育館 ③ 9 月 25 日（水）13:15～14:15、酒田市立若浜小学校、4 年生、49 名、体育館 ④ 9 月 26 日（木）10:30～11:30、酒田市立一條小学校、5 年生、15 名、体育館 ⑤ 9 月 26 日（木）14:00～15:00、酒田市立内郷小学校、3・4 年生、25 名、体育館 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 9 月 24 日（火）19:00～20:30、小学生(3～6 年生)、無料、33 名、酒田市総合文化センター体育室	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『Rise vs Fall』 『つぶつぶいっぱい～いつかあなたを抱きしめる～』（小学生作品） 『太陽と月』 ■ 9 月 29 日（日）14:00 開演（13:30 開場） ■ 一般 1,000 円、学生 500 円 ■ 酒田市民会館 希望ホール 大ホール ■ 177 名	
	

スケジュール

山形県酒田市／酒田市民会館 希望ホール

	下見①			下見②	
	4/10(水)	4/11(木)		6/30(日)	7/1(月)
9:00		打ち合わせ			若浜小学校 下見
10:00		↓			南遊佐小学校 下見
11:00		校長会にて 事業説明			一條小学校 下見
12:00		↓			
13:00					
14:00	市内見学			打ち合わせ	内郷小学校 下見
15:00				↓	琢成小学校 下見
16:00	打ち合わせ				
17:00	↓			インリーチ	
18:00				↓	
19:00	交流会			打ち合わせ	
20:00				↓	
21:00					
22:00					

	実施期間						
	9/24(火)	9/25(水)	9/26(木)	9/27(金)	9/28(土)	9/29(日)	9/30(月)
9:00							
10:00		南遊佐小学校 アウトリーチ	一條小学校 アウトリーチ		小学生作品 明かりづくり	ゲネプロ	
11:00		↓	↓	会場・照明等のチェック リハーサル		↓	
12:00					↓	↓	
13:00	FMハーバー ラジオ出演	若浜小学校 アウトリーチ			小学生作品 稽古		帰途
14:00		↓	内郷小学校 アウトリーチ			公演	
15:00	琢成小学校 アウトリーチ		↓			↓	
16:00	↓	明かりづくり	リハーサル			バラシ	
17:00							
18:00					リハーサル	打ち上げ	
19:00	公募 WS						
20:00	↓	↓	↓	↓	↓		
21:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

ダンスクラブがあり、休み時間も踊っている生徒が多いということから、先生方の中でも授業などで取り入れられる「ダンス」への関心が高かった。

ワークショップは、ごみ袋に新聞紙を入れた物をボールに見立て、2人組で投げ合うことから始まった。投げ方を変えたり、投げるスピードを変えたりと変化をつける中で、静的な動きに変わった時に静かに音楽が流された。ボールを持ったつもりで相手に投げる動きは、まさにダンスであり、非日常的なものと考えていた「ダンス」が、身近なものに変化した感じであった。

9月24日（火）15:15～17:00

酒田市立琢成小学校 教職員 20名



●アウトリーチ②

学校に入ると、手作りの歓迎ポスターが校内各所に展示されており、赤丸急上昇への期待感が伝わる雰囲気の中で、気持ち良いスタートを切ることが出来た。ワークショップには、校長先生と教頭先生も生徒と一緒に参加してくださり、歓迎ムードの中で始まった。

ワークショップは、A4のコピー用紙を使って2人組で行った。1枚のコピー用紙は、空気の動きによってしなやかに動きを変え、参加する生徒たちを「運動」から「ダンス」へと自然に導いてくれるものであった。また、1枚の紙に重さや大きさを加えると、イメージが広がり、子ども達の表現の仕方にも変化が感じられるものとなった。先生方からは、1枚の紙でダンスが出来ることに対する感嘆の声が上がっていた。

9月25日（水）10:10～11:10

酒田市立南遊佐小学校 5・6年生 20名



●アウトリーチ③

校長先生はじめ担任の先生もインリーチから参加してくださり、趣旨を理解いただいた上での取り組みとなった。とても元気で活発な生徒が多く、赤丸急上昇のパワーに応えるように元気なぎる賑やかなワークショップとなった。

ワークショップは、赤丸急上昇によるデモンストレーションから始まった。お面をかぶったインパクトのある入場は、生徒の心を一気に引きつけ、笑顔の中でスタートした。その後は、ごみ袋を使ったアクティビティとなった。2人組でごみ袋を介してコミュニケーションをとっていく方法は、一見ボールの投げ合いと似ているが、動きのスピードを変化させていくことにより、その動きはダンスへと変化していった。

※地元テレビ局 YBC 地域ニュースで放映

9月25日（水）13:15～14:15

酒田市立若浜小学校 4年生 49名



●アウトリーチ④

何が始まるのか期待と不安が入り混じった表情で対面。赤丸急上昇のデモンストレーションに一気に心を奪われた様子で少しずつ表情も和らぎ、笑顔になっていった。A4のコピー用紙を使っのアクティビティであったが、1枚の紙のもたらし動きの面白さに、少しずつ心が解放され楽しんでいるようだった。

9月26日(木) 10:30~11:30

酒田市立一條小学校 5年生 15名



●アウトリーチ⑤

校長先生の「心待ちにしました」の歓迎のご挨拶に心が和むとともに、校庭にスキー場を持つ悠々とした環境で育つ生徒の皆さんとの対面を心待ちにし、ワークショップに臨んだ。体育館に入ってくる生徒を迎える赤丸急上昇の出迎でも「笑いは力」のキャッチコピーにふさわしい楽しいもので、対面時から笑顔があふれるものであった。ワークショップは、A4のコピー用紙を使用した。一連の体をほぐすゲーム的なものから、紙の動きを利用したダンス的な動きへとアクティビティを変え、最後は「ダンス」を実感出来る動きへと変化し終了した。先生も生徒も型のないダンスゆえの身近なダンスに感嘆していた。

9月26日(木) 14:00~15:00

酒田市立内郷小学校 3・4年生 25名



●公募型ワークショップ①

コンテンポラリーダンスは、①型にはまらない表現であり1人1人の個性が尊重されるものである。②自分とは異なる他者の価値観を認める経験をすることで、人と人とを繋ぐきっかけになる。③コンテンポラリーダンスの自由な身体表現は、自分の意外性を見出すきっかけにもなり、自信を育み、コミュニケーション能力の向上に繋がる可能性がある。④学級運営に効果が期待出来る、と効果を説明し募集を行った。

その結果、コミュニケーション能力向上に期待感を持つ保護者からの申し込みがあり、33名の小学生が参加した。

1人1人に赤丸急上昇がニックネームを付け、参加者はニックネームで呼び合いながら、初対面の人とも友達になれるようなゲーム的な内容で進められた。

9月24日(火) 19:00~20:30

酒田市総合文化センター 小学3~6年生 33名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アーティストによって表現が異なり、前衛的なダンスのイメージが強かった参加者にとって、ダンスとは実は身近な動きの中にあることを実感出来るものであったと思う。

また、ダン活の効果として説明してきたコミュニケーション能力の向上と言う部分においても、様々な動きの中で、自然に気持ちが解放され、初対面の人同士も笑顔でコミュニケーションが出来ていたことは、有効性を確認するに十分なものであったと思う。全身運動だと思っていた動きが、ダンスに変化していく過程は新しい発見であった。体験しなければ分からない、体験すると語りたくなるというコンテンポラリーダンスの新しい世界との出会いを楽しんでいた。

6月30日（日）17:30～19:00

酒田市民会館 希望ホール 練習室1

希望ホール自主事業運営委員会グループ員・アトリーチ先教員
22名



地域交流プログラム内容

9月25日(水) 酒田市立南遊佐小学校 5・6年生

●デモンストレーション

校内各所に、歓迎の手作りポスターが掲示されていた。最初は、赤丸急上昇によるデモンストレーション。「丸ちゃ〜ん」の掛け声とともにお面を付けた赤丸急上昇の丸山さんが登場。インパクトのある登場に、会場内は一気に笑顔があふれ、和んだ雰囲気でのスタートとなった。

●手つなぎ鬼

準備運動を兼ねた手つなぎ鬼。先生も赤丸急上昇も一緒に体育館いっぱいに走りまわり、心ほぐしが始まった。

●イメージを広げて

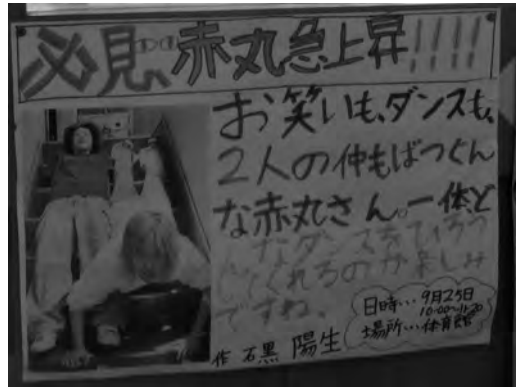
A4のコピー用紙を全員に配布。校長先生や教頭先生も一緒に参加してくださり、2人組でアクティビティを開始した。手の平にコピー用紙を乗せ、上下、左右、速度を上げて回転、走って渡すなど変化をつけて落とさないように行った。2人で息を合わせて協力することで、より確実に紙の受け渡しができることから、自然と声をかけあい、柔軟な動きと共に心が解放されていく感じが会場内に響く楽しそうな声からも感じられた。赤丸急上昇が先生方に説明されていた「身体ほぐしは心ほぐし」が順調に行われていたようだ。

コピー用紙の使用をやめ、頭で紙をイメージする表現に切り替わった。大きくて重い紙を相手に渡す、小さな紙を静かに相手に確実に渡すなどイメージの中の1枚の紙は、重くなったり軽くなったりと形や重さを変えながら自由な発想で表現するというものだった。全く恥ずかしがることもなく、自由にのびのびとそれぞれのやり方で表現し、楽しんでいる様子だった。

イメージの世界の紙は、非日常的だと思っていたダンスの表現に無理なく自然に導き、抵抗感なく「ダンス」ができていたことに、驚きと感動を与えてくれるものであった。

●お見送り

退校しようと玄関に向かうと、生徒たちがアーチをつくって待っていた。その中を通り、熱いエールとともに見送っていただいた。緊張して向かったアウトリーチ先で、先生はじめ生徒の皆さんの真摯な姿と温かいおもてなしの心に、たくさんのエネルギーをもらい、南遊佐小学校を後にした。



公演

『気分上々！熱気上昇！赤丸急上昇 DANCE 公演』

【演 目】『Rise vs Fall』

『つぶつぶいっぱい～いつかあなたを抱きしめる～』

(小学生作品)

『太陽と月』

【日 時】9月29日(日) 14:00 開演

【出 演 者】赤丸急上昇(赤松美智代+丸山陽子)

池内文 佐野和幸

小学生作品参加者 19名

【入場料金】一般 1,000円 学生 500円

【会 場】酒田市民会館 希望ホール 大ホール

【入場者数】177 名



コンテンポラリーダンスの理解者が少ない状況での取り組みは、コンテンポラリーダンスとは何か、その取り組みによって期待される効果は何かを丁寧に何度も説明するところから始まった。コンテンポラリーダンス事業に取り組むにあたり、PRの難しさは当初の予想以上で、関心を抱いてもらうために一つ一つ丁寧に組みんでいくことが求められた。

事業実施にあたっては、地元のマスコミ関係、校長会、ダンス関係者など広く説明を行った。公演チケットは、アウトリーチ先の小学生、公募型ワークショップ参加者、ダンス公演のリハーサル風景を撮影した写真部の皆さんなどに招待券を配付するとともに、赤丸急上昇の魅力を伝え、興味を抱いてもらえるようにPRに努めた。

公演は、赤丸急上昇と2人のダンサーによる二つの作品と公募で応募のあった酒田市内の小学校3年生～6年生までの19名によるワークショップ作品の全3作品。

ワークショップ作品に参加した子どもたちは、赤丸急上昇との出会いをとても喜び、映像も駆使したプロのアーティストによる作品の創作を楽しみながらも真剣に臨んでいた。年齢も異なり、初対面の人も多い中で、1人1人の個性が尊重され予想以上に深く自然に繋がっていったことは、正に赤丸マジックであった。「身体ほぐしは心ほぐし」という赤丸急上昇の言葉とともに、「表現する」という今回のコンテンポラリーダンスによる取り組みがコミュニケーション能力の向上に効果があることを証明してくれるものであった。

※酒田光陵高校写真部の生徒約30名が、赤丸急上昇のリハーサル風景を撮影した。プロのアーティストの公演を撮影するという貴重な機会に恵まれ、中間テスト目前という状況であったが、とても楽しんでいる様子だった。撮影した写真は、公演時間に展示した。高校生の視点で切り取った1枚1枚は、高校生の感性が感じられる面白いものが多かった。



●この事業への応募動機

平成16年に開館した酒田市民会館「希望ホール」では、主に鑑賞型の事業を中心に各種公演を行ってきた。しかしながら、開館当初に比べホールに対する市民の注目度は低下、顧客の固定化傾向が強くなってきている。学校や市民グループと共同で事業を実施することにより、「芸術文化」の楽しさや意義を広く体感していただけるような取り組みが必要であると考えていた。これらの事業を効果的に実施するために、専門家のアドバイスをいただきながら、課題に対する取り組み方や企画運営のノウハウの習得を目指すとともに、芸術文化に対する無関心層への動機づけと潜在顧客の育成を行うことを目指したものである。

●事業のねらいと企画のポイント

アウトリーチやワークショップをとおり、身体を動かすことの楽しさ、身体の動きの面白さ、または体を使った表現やコミュニケーションへの有効性を体験してほしい。また学校等へのアウトリーチを行うことにより、その過程において事業実施後も継続していける関係性を築くとともに、子ども達に文化事業への関心を持ってもらうきっかけにしたいと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

「コンテンポラリーダンス」への理解者が少ない状況での取り組みであったため、アウトリーチ先の募集、ワークショップ参加者募集、公演PRなど、全ての場面で「コンテンポラリーダンスとは？」から説明するところから始まった。アーティストによって表現が異なるゆえに、チラシやポスターだけでは伝わりにくく、更に言葉を添えても理解してもらえないという極めて難しい局面が何度もあり、効果を語ることで理解していただいた感じであった。

●事業の成果

コミュニケーション能力の低下が社会問題化する中で、このたびの事業は、人と人のコミュニケーションを図るための重要なポイントが「ダンス」というツールの中でいくつか示されていたものと思う。

赤丸急上昇が事業を展開する前に1人1人にニックネームを付けた。面識あるなしに関わらず、ニックネームで相手と呼ぶことは、相手との心理距離を縮め、関心や愛着を抱かせるものとして有効であった。相手の名前を呼ぶという行為は日常生活における当たり前の行為であるが、実はこのあたり前の行為がコミュニケーションを図る上で重要であることを改めて教えていただいたように思う。

また、「コンテンポラリーダンス」の自由な表現は、日常生活の中にも身体表現は存在し、ダンスは身近なものであることの気づきを与えてくれるものであった。他者の自由な表現を認めることは、相手を認めることであり、型がない故に1人1人が尊重されていく心地よさもそれぞれが感じたことだろう。

体験しなければわからない、体験したら語りたくなる、そんな魅力を秘めたコンテンポラリーダンスは、赤丸急上昇のお二人の真摯な作品創りを通し、体験した参加者に確かに何かを刻み終えることができたものと考えている。

●反省点、今後の課題など

このたび初めて取り組んだコンテンポラリーダンスだったが、表現するという「ダンス」としての視点のみならず、価値観が多様化する現代だからこそ、人と人との「繋ぐ」一つのツールとしての有効性への気付きは、街づくりにおける文化の重要性を再認識することにも繋がっている。

このたびの事業をきっかけに、公共ホールとしての役割と街づくりにおける芸術文化の意義をしっかりと発信出来るような事業展開に努めるとともに、未来を担う子ども達の生きる力を養う一助になるような取り組みを継続的に行っていききたいと思う。

●この地域のダン活の特徴

酒田市民会館「希望ホール」のダン活で最も印象深く、また圧倒的なパワーを発揮したのが、自主事業企画運営委員会の存在だった。平成16年に開館したこのホールでは、開館当初から自主事業を企画運営しホールを応援する地元の有志約50数名が集まり、音楽のクラシック班とポピュラー班、そして演劇班の三つのグループに分かれて活動してきた。クラシック班では数年前に酒田市内で撮影された映画「おくりびと」に協力し、「希望ホール」でのオーケストラや合唱シーンにエキストラとして出演するなど活躍した。今回のダン活は演劇班の佐藤みどりさんをリーダーに、班を跨いだ混成チームで活動した。事前のダン活研修会からアーティストを選ぶプレゼンテーションまで、ホール担当者の文化スポーツ振興課小松千佳さんと佐藤さんが常にコンビで出席し、この事業は終始官民一体となって推進された。

4月の第1回目下見では、委員会の14名のメンバーがインリーチに参加した。農家のご主人、パン屋さん、印刷屋さん、学校の先生に主婦、さまざまな職業と年齢層が集った。手作りの郷土料理が並ぶ交流会では、楽屋ラウンジで煮炊きした孟宗汁や各自持ち寄った皿が溢れた。真心こもった温かいお袋の味に、アーティストの赤丸急上昇もいっぺんでノックアウトだ。公演の協賛にJAを付けて庄内米や食材を提供してもらうという奮ったアイデアも、ダン活では初めてかもしれない。公演期間中は創作に追われて劇場に缶詰めになる出演者やスタッフのために、連日手作りのカレーや豚汁が振る舞われた。創作の合間に、ほっと一息ついて全員がテーブルを囲む。それは料理の湯気のように温かい、最高の“おもてなし”だった。ホールの文化事業を応援する方法は、さまざまにある。「こんなことしか出来ないから」と、何十キロの芋の皮を私たちのために剥いてくれたお母さんたちの存在が、「この土地のために何か遺したい」と私たちを発奮させた。

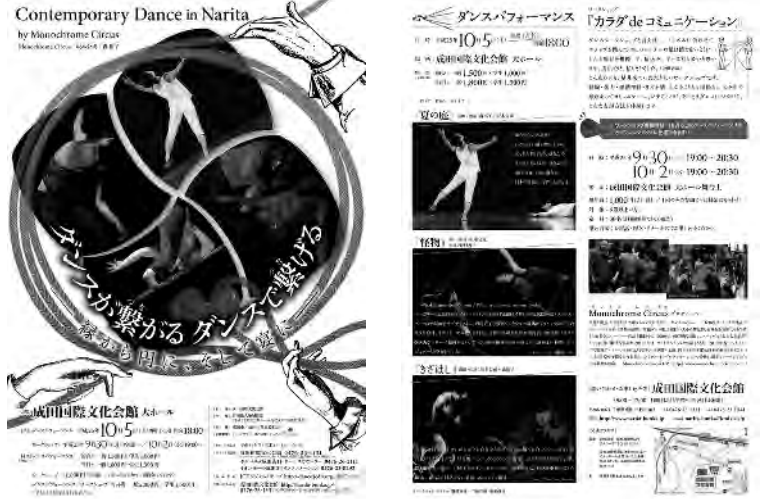
今回のダン活のテーマは、ダンスを通し人と人を繋ぐこと。そして未来を担う子どもたちに豊かな経験を提供することだった。いじめや孤立など現代社会の中でさまざまな問題を抱える子どもたち。小さな子どもを持つお母さんの小松さんと企画委員会の皆は、「酒田の未来を担う子どもたちを、地域の皆で育んでいこう」、という使命感を共有してこの事業に取り組んだ。結果、アウトリーチもワークショップも対象を子どもたちに絞り、公演でも子どもたちが参加する作品が創作上演された。

また、地域資源を活かした取り組みも行われた。酒田には写真家土門拳の作品を収蔵した「土門拳記念館」があり、アマチュア写真家も多い土地柄だ。そこで高校の写真部を招いて今回の公演の舞台写真を撮影する、ダンスと写真のコラボレーションの機会を作った。高校生にとっては、実際に舞台上でダンスを観るのも舞台写真を撮るのも初めての体験だった。撮影した写真は公演当日にロビーで展示され、出演者による賞などが設けられた。

●課題とこれからに向けて

今回の公演では20数名の子どもたちが舞台上で可愛いダンスを披露した。初めてダンスを体験し、赤丸急上昇の元気なパワーに触発され、舞台の感動を味わった子どもたちは、口々に来年の継続を訴えているそう。委員会ではこの成果を一過性で終わらせず、子どもたちの希望を叶えるために、何とか縮小してでも独自で続けることを検討していると言う。委員会自体も、今回初めてこれだけ皆の意志が一つになり、従来のように単に切符を売りさばくだけでなく、もう一步踏み込んだ積極的な活動ができた経験と自信を次に繋げていく必要があると感じている。大きな予算や特別な才能だけが、文化振興や地域活性化を牽引していくわけではない。一人ひとりの普通の人が知恵を出して何か自分にできることを提供し、人の繋がりの中で協力して目的に向かって進む。その中で一人ひとりが自分を発揮し、輝いていく。ダンスを通して地域に元気の種が撒かれた。そして酒田にはこれを育てていける「人」という豊かな土壌があるのだ。ホールの運営にとって、集団の一人ひとりの意見を事業に反映させ、柔軟に舵取りをしていくのは根気のいる仕事である。しかしせっかく盛り上がり一つになった委員会とホールのきずなを大事に、これからの事業に発展させて行っていきたいと願う。人は何よりの地域資源だということを実証するようなダン活だったと思う。

成田国際文化会館 実施データ

実施団体	株式会社ケイミックス
実施ホール	成田国際文化会館
実施期間	平成 25 年 9 月 30 日(月)～10 月 6 日(日)
アーティスト等	アーティスト：坂本公成＋森裕子 共演者：野村香子 テクニカルスタッフ等：護得久加奈
コーディネーター	佐東範一
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 6 月 12 日(水) 18:00～19:30、アウトリーチ先関係者・ホール職員他、13 名、大ホール舞台上 ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 10 月 1 日(火) 9:35～10:55、成田市立中台中学校、1 年生①、50 名、体育館 ② 10 月 1 日(火) 11:05～12:25、成田市立中台中学校、1 年生②、52 名、体育館 ③ 10 月 1 日(火) 18:00～19:30、子どもプラザ成田、子ども、17 名、大ホール舞台上 ④ 10 月 2 日(水) 14:00～15:30、成田市生涯大学校、高齢者、21 名、成田市生涯大学院 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 9 月 30 日(月) 19:00～20:30、6 歳以上、10 名 ② 10 月 2 日(水) 19:00～20:30、6 歳以上、9 名 ※2 回連続、参加料は 1,000 円(2 回分)	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■「オープニングアクト」 『夏の庭』 『怪物』 『きざはし』 ■ 10 月 5 日(土) 18:00 開演(17:30 開場) ■ 一般 1,500 円(当日 1,800 円)、学生 1,000 円(当日 1,300 円) ■ 成田国際文化会館 大ホール ■ 51 名	
	

スケジュール

千葉県成田市／成田国際文化会館

	下見①			下見②	
	4/16 (火)	4/17 (水)		6/12 (水)	6/13 (木)
9:00					
10:00					
11:00		ホール下見			現地下見
12:00		↓			↓
13:00	成田入り			成田入り	
14:00		打合わせ		生涯大学校 下見	打合わせ
15:00	子どもプラザ 成田打合わせ	↓			↓
16:00	市役所訪問	↓		中台中学校 下見	↓
17:00					
18:00	交流会			インリーチ	
19:00	↓			↓	
20:00				交流会	
21:00					
22:00					

	実施期間						
	9/30 (月)	10/1 (火)	10/2 (水)	10/3 (木)	10/4 (金)	10/5 (土)	10/6 (日)
9:00	リノ敷き	中台中学校 アウトリーチ①					
10:00	↓	↓		仕込			移動
11:00	↓	中台中学校 アウトリーチ②				テクニカル 手直し	
12:00		↓			仕込	↓	
13:00		舞台仕込	移動		↓	通し	
14:00		↓	生涯大学校 アウトリーチ		↓	↓	
15:00		↓	移動			プレパフォーマンス リハ	
16:00						↓	
17:00	成田着	準備			ゲネプロ	開演準備	
18:00	公募 WS 準備	子供プラザ成田 アウトリーチ	公募 WS 準備		↓	公演	
19:00	公募 WS①	交流会	公募 WS②	↓	手直し	↓	
20:00	↓		↓		↓	ピレ-交流会	
21:00						交流会	
22:00						↓	

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

3 クラスを2 枠に分けなければならなかった為、大きな円となった。足裏マッサージになると、子供たちの笑い声が響き、「多感な年頃の学生を選んでしまった！」と内心ヒヤッとしたが、アーティスト2 人が速やかに男女学生の境目に入り、照れてワークができないといった状況は見られなかった。ワークの中で遊び心を持って、アレンジして楽しむ学生もいれば、遊び心が度を越えて、遊んでしまう子もありアーティストがそこへ入るなどして気を遣わせてしまった。やはり適度な参加者数というものを、コーディネーターとしては確保してあげるべきだったと反省。「気を合わせて一緒に動いて」という声かけから皆の息遣いに変化が。

10 月1 日（火）9:35~10:55

成田市立中台中学校 1 年生① 50 名



●アウトリーチ②

平均身長も高い大人びた生徒たち。アーティストの対応も先に行った生徒が「自由に楽しく」だとすればこちらは「集中する」だった。円になってのマッサージにはかなり抵抗があったようで、実際隣の子を触らない女子も。ペアで後ろのフォロワーが目をつぶって歩くワークもじゃれ合ってしまう、見えていない相手を思いやるところまで行きつけない生徒もいた為、体育館を横長に使い、人差し指同士をくっつけて歩くフロアワークを試みた。結果この回は技術的なワークになったことは否めない。最後にアーティストから「真摯に取り組むことが大事」「ダンスを通じて、日頃見えていないものを感じてほしい」という言葉が彼らに贈られた。

10 月1 日（火）11:05~12:25

成田市立中台中学校 1 年生② 52 名



●アウトリーチ③

成田市とその周辺の子どもに対して文化的体験活動を通して、人のつながりを感じ自分らしく生きるための機会や環境を創造することを目的とし設立された団体。小学生から大人までの参加となった。「今日は静かに自分の身体や相手の身体をよく聞いてみてください。」という冒頭のアーティスト言葉に真剣に耳を傾けていた。日頃から一緒に活動していることもあり、参加者同士は仲も良く、円になって前の人の耳たぶをマッサージする場面では、後ろの人に体を預けて皆で大笑いする場面も。体のサイズの差があるペアもいたが、それぞれが2 人の間でバランスを取ながら取り組んでいたのが印象的であった。

10 月1 日（火）18:00~19:30

子どもプラザ成田 17 名



●アウトリーチ④

高齢者の地域社会の向上の場を作り、新たな生きがいの創造をすることを目的に作られた団体。様々な活動や趣味を持つ好奇心旺盛なメンバーで最高齢者は81歳。

「communication」というキーワードに惹かれて参加した方が多数。1、自他の身体を意識する。2、無理をしない。この2点を基本に始まった。身体の流れあいには敏感になっていたようで、課題の度に参加者の大きな笑い声が響き、周りにいた関係者も巻き込まれるように一緒に笑った。その笑いは心も体もほぐしたようだ。男女のペアにはある種の「意識」が感じられた。ペアの動きにはかなりバリエーションがあり、走り回る人達や、歌い始める人、皆が子供に戻ったような貴重な時間であった。

10月2日（水）14:00～15:30

成田市生涯大学校 1年生 21名



●公募型ワークショップ①

小学生からホール舞台スタッフ（照明）まで10名の参加となった。公演に携わる照明さんのWS参加は、ホールにとっても嬉しいものであり、実際公演時のアーティストとのスムーズなコミュニケーションに役買っていたと思われる。初めに3つの課題を渡される。1、自分の身体を聞く。2、相手の身体を聞く。3、自分の身体は自分で守る。アドバイスがホールに響く。「ねじれた時、慌てずに待ってみてください。もしかしたら対応の仕方がわかるかも。手を離さずに、解決方法を考えてみて」これは、ダンス以外にも当てはまる哲学のようであり、他者とつながる難しさと喜びを体感できる初回WSとなった。

9月30日（月）19:00～20:30

成田国際文化会館 6歳以上 10名



●公募型ワークショップ②

前回WSを受けたホール職員が、お声かけしたことで初参加となったメンバーを数名迎えての2度目のWS。通常向き合うことのない、顔と顔ならぬ、足裏同士が向き合いご挨拶をし、パーソナルスペースをダンスという名目のもと軽々と越えていく。お互いの身体を通じて生まれる感情の中に見つけ出されていく、冒険、信頼、そして新たな世界観。その世界が他のペアとつながると、作り上げたものが壊れるのではなく、ある一体感の中、細胞分裂のような動きをみせたのち、広がっていく。シンプルに身体に触れ、素直にその感覚を受け入れる呼応の美しさと強さ。どのWS終了後もWS前にはなかった会話が活発に行われていることを特記したい。

10月2日（水）19:00～20:30

成田国際文化会館 6歳以上 9名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

参加者は「体験することを楽しみに」来ており、終始和やかな空間の中行われた。円になり、他者との身体的距離感を狭めながら、普段は人に見せたり、触らせたりしない足の裏や脚の付け根、その他の体の部位をマッサージしながら緩やかにコンタクトが始まっていく。恥ずかしさ、可笑しさ、偶然できた身体での造形の美しさなど感動を共有。参加者はただ「繋がる」ことに集中していただけだったが、客席にいた関係者、見学者より、「美しいダンスだった」とコメントされ、コンテンポラリーダンスのエッセンスを体感することとなった。本事業、WS、コンタクト・インプロヴィゼーションについての理解者、説明者を増やすよき機会となった。

6月12日（水）18:00～19:30

成田国際文化会館

アウトリーチ先関係者・ホール職員他 13名



地域交流プログラム内容

10月2日（水） 成田市生涯大学校 1年生

●円になって自己紹介とほぐし

開始前に各自軽くストレッチなどしてもらい、アーティスト紹介のあと円に。足裏マッサージなど行いながら、WS ネームと呼ばれると各自大きな声で「はい！」と返事をしていたのが印象的。隣の人の太ももマッサージが始まると、女学生のように楽しそうな笑い声が会場を包んだ。コンタクトの効果絶大である。

●ペアになる（前屈ストレッチと仏像シュワッチ）

一人が座って前屈、もう一人が上に乗り体重を利用して、緩やかに圧をかけていきながらパートナーの状態を体感する。その後、一人がシュワッチのポーズで立ち、もう一人が、「シャーッ」と言いながら両手でパートナーの体を挟み滑らせ、不要なテンションを取り除いていく。ここで男女のペアにはある種の躊躇が見えたが、これも二人の関係を築く重要な時間。

やりにくそうではあるが、悪いことではなさそうだ。

●ブラインドウォーク

同じペアのまま 2 人前後に立ち、後ろに立つフォロワーは目をつぶり、リーダーの背に手を添えついていく。なかなか目をつぶれない参加者もいる中、走り回るペアも。アーティストからは「体の声を聞いて」「後ろの人は怖いので意識して」との声かけあり。

●手でつながるダンス

リーダーの手の上にフォロワーの手を乗せ、そこを通じたコンタクトにより 2 人で動いていく。「手を引っ張られて怪我をしないように手離れてもよいと思って動いてください」と声かけられた。もはや触れることに躊躇はみられない。その後リーダーが代わり、誰からともなく手と手が他のペアとつながっていき、今ここに集まった縁が大きな円へと体现された。心身が軽くなり、脳トレ、感性を磨ける内容だと大絶賛にて終了。



公演

『Contemporary Dance in Narita Monochrome Circus ダンスが繋がる ダンスで繋げる 一縁から円に、そして宴に一』

【演 目】* オープニングアクト

『夏の庭』

『きざはし』

『怪物』

【日 時】10月5日(土) 18:00 開演

【出 演 者】坂本公成 森裕子 野村香子

【入場料金】一般1,500円(当日1,800円)

学生1,000円(当日1,300円)

【会 場】成田国際文化会館 大ホール

【入場者数】51 名



成田国際文化会館の大ホールの特徴は、まずはロビーが広いこと。ちょっとした小劇場程度の広さがあります。そして、1階席の客席は、大きくなだらかに下に向かって広がっています。今回は、客席の最後列に出る「3番入口」のみを使用しました。お客様は、客席に入った瞬間、舞台を見下ろす形になります。

公演は17:30開場、18:00開演。しかし、開場してもお客様を客席にはご案内せず、ロビーにて待機をお願いしました。いわゆる「ロビー開場」の状態です。お客様は、「？」を頭に浮かべながらも、ロビーで待っています。このとき、ベンチや椅子がさりげなく輪になって配置されていたことに、若干の違和感を持っていた方もいたかもしれません。

このロビーのもうひとつの特色は、「ガラス張り」というところです。時が経つにつれ、外が暗くなり、同時にロビー内も薄暗くなっていきます。

開演時間の18:00になっても、お客様はロビーで待機したままです。やがて、その場で「まもなく開演します」のアナウンス。そして、ロビーに設置されていたSSライトが灯りました。その灯りの先で森さんが踊り始めます。その踊りは、やがてお客様と繋がり、そしてそのお客様がまた別のお客様と繋がり、大きな円となっていきます。

その大きな円のまま、全員が「3番入口」から客席に入り、繋がったまま階段を降りていきました。そして、みなさまが席に着き、公演が始まりました。

公演終了後、ロビーにて軽い交流会を開催しました。思いがけない出会いなどもあり、大変有意義な会でした。同じ公演を観に来たという「縁」が「円」となり、そして「宴」となりました。

●この事業への応募動機

成田市という市は、成田山新勝寺の門前町という側面と、成田国際空港を擁する日本の玄関口という、二つの顔を持っています。文化活動も盛んで、数多くのサークルが積極的に活動しています。

しかし、多種多様なサークルが活動している割には、会員同士の交流は多くありません。特に、「旧市民」と「新市民」の交流は極めて少ない現状です。

ならば、まったく異質のものを媒介にして、既存のサークルの会員の方々の交流を促進できないかと考え、本事業に応募いたしました。

●事業のねらいと企画のポイント

Monochrome Circus のお二人を希望したのは、「信頼」「縁」というキーワードを感じたからです。見知らぬ同士の者が信頼しあうには、普通は時間がかかります。しかし、MC のお二人のWS では、お互いがいつの間にか信頼しあっています。そうして出来た「縁」がやがて「円」になっていく、それが今回の狙いでした。

上記のことを踏まえ、『「縁」から「円」へ、そして「宴」へ』というサブタイトルをつけました。

●企画実施にあたり苦労した点

やはり「言葉で説明できない」ものを「言葉」で伝えなければならなかったところが、一番苦労した点です。体験すれば、その素晴らしさは伝わるのですが、そこに至るまでが大変でした。様々な資料などを作って説明しましたが、やはり最後は「熱意」でした。

また、説明会のときから聞かされてはいたのですが、やはり、学校に対してのアプローチのとき、「一部の生徒だけを対象にはできない」との返事が多かったです。これは、ダン活の枠内では解消できない問題ですので、今後、じっくりと考えていきたいと思います。

●事業の成果

「旧市民」と「新市民」の交流が始まった、とまでは言いませんが、交流のきっかけになった確信はあります。

また、公演が“サプライズ”での市民参加型だったこともあり、公演に来てくださった方との思わぬ交流も生まれました。

●反省点、今後の課題と事業展開

手探りの状態で事業に取りかかったため、計画していたほど能率的に動けなかったと思います。アーティストとも、コーディネーターとも、もう少し綿密にコミュニケーションをとっていたら、もっと効果的に告知などの展開ができ、もっと多くの団体、参加者に集まっていたかのではと反省しています。

しかし、参加いただいた団体には、館の意図は伝わり、今後の協力も約束いただきました。成田市内・近郊に影響力のある団体ですので、今回を「足がかり」に、すこしずつ「円」を大きくしていきたいと思っています。

●この地域のダン活の特徴

ダン活では、2 回の担当者の研修の中で、自分のホールがあるところの“地域資源”を挙げていただき、ダン活の中でどのようなところと、どのような関係性を築くことによって、この初めてのダンスを、継続かつ発展させていけるかということ話し合うのだが、今回の成田でのダン活は、その“地域資源”として挙げていただいたところと、とてもよい関係性が創れたと思う。それは、“NPO 法人子どもプラザ成田”と“成田市生涯大学院”との出会いである。NPO 法人子どもプラザ成田は、昔各地で盛んだった親子劇場の現在形？なのだが、他の地域ではほとんど活発な活動がなくなっている印象がある中で、自主事業を年に何回も行い、大変活発な活動をされている。この人たちと一緒に創っていくような公演が出来たらとみんな思った。そしてその通り、最後の公演では、彼女たちの協力を得て、ロビーでお客さんが待っているところから公演が始まり、ダンサーたちと出演者がなんと全員が繋がり、そのまま劇場の中に入って行って、舞台上のダンスが始まるという、そんなダンス公演見たことがない、というものになった。成田市生涯大学院は、60 歳以上の方々のための、まさに大学である。3 年制で、様々な種類の授業が組まれている。私は 1 年生、私は 2 年生ですと、紹介されるとこちらがドキドキしてしまう。これまで 1,400 人の卒業生がいるそうだが、校長先生をはじめ、皆さんがとてもイキイキしているのである。坂本さんと森さんによるワークショップは、コンタクトインプロビゼーションを基本にされていて、皆さんが身体をコンタクトするのだが、あんなに嬉しそうに、そしてこれ以上ないぐらいの楽しい顔をされていて、これから高齢者社会を迎えるにあたり、もしかしたらコンタクトインプロビゼーションは、高齢者の気力、体力、感情を活性化させるためにとても良いと判断され、日本中の高齢者がみんな行うようになったら面白いと思った。ワークショップを見ていて、こちらも元気もらったような気がした。公演にも校長先生をはじめ数名の方が、観に、いや参加してくれた。

成田国際文化会館は、他の“地域資源”として、日本一の正月の参拝客を誇る成田山新勝寺、そして成田空港を抱える、資源“豊富”なところである。それらの特異性を活かして、例えば、成田空港に着いたアーティストが、しばらく成田に滞在し、稽古ができるスペースがあり、時差ボケを治す？ための、国際的なレジデンスプロジェクトを行うなど、いろいろなことが出来るのではと思えた。どのような視点で企画を創るかだと思う。成田ならではの、プロジェクトを立ち上げてほしいと期待します。

●課題とこれからに向けて

どうしても東京から近いと、東京からのアーティスト、東京からの観客と、東京を中心に考えてしまうところがある。確かに何かをやろうとすると、自分の地域にアーティストも観客もいないから実際的に東京に頼らざるを得ないところはあると思うのだけれども、東京から近かったとしても、その地域の独自の視点で事業を行わないと、結局そのジレンマを解決することはできない。地域の様々な団体と連携を取りながら、共に事業を創っていくということが、もっと必要になってくると思う。ぜひ地の利を活かして国際的なレジデンス事業やプログラムを行うことを期待しています。

小田原市民会館 実施データ

実施団体	小田原市
実施ホール	小田原市民会館
実施期間	平成 25 年 8 月 20 日(火)、平成 25 年 9 月 30 日(月)～10 月 6 日(日)
アーティスト等	アーティスト：田畑真希 アシスタント：王下貴司 共演者：カスママリコ
コーディネーター	志賀玲子
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 5 月 14 日 (火) 18:30～20:30、小学校・幼稚園教員・ホール関係者、15 名、小ホール ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 10 月 1 日 (火) 10:00～10:45、れんげ幼稚園、5 歳児、24 名、ホール ② 10 月 1 日 (火) 11:00～11:45、れんげ幼稚園、5 歳児、23 名、ホール ③ 10 月 2 日 (水) 10:40～12:15、小田原市立下曽我小学校、4 年生、34 名、体育館 ④ 10 月 2 日 (水) 15:30～16:20、小田原市立片浦小学校放課後子ども教室、1～6 年生、13 名、体育館 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 8 月 20 日 (火) 18:30～20:30、中学生以上、無料、16 名、小ホール ② 10 月 1 日 (火) 18:30～20:30、高校生以上、1,500 円、12 名、小ホール ※②と合わせて 4 回の WS(稽古)を実施し公演にて作品を発表 (参加料は 4 回分*公演チケット 1 枚付)	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『創って踊る！心躍る！小田原ラブソディ！』(ワークショップ作品) 『メルヘン ODAWARA Version』 ■ 10 月 6 日 (日)、14:00 開演 (13:15 開場) ■ 一般 1,500 円、高校生以下 800 円 ■ 小田原市民会館 小ホール ■ 141 名	



スケジュール

神奈川県小田原市／小田原市民会館

	下見①			下見②	
	5 /14 (火)	5/15 (水)		8/20(火)	8/21 (水)
9:00					
10:00		打合せ			片浦小学校 打合せ
11:00					
12:00					打合せ
13:00	打合せ				
14:00	↓	市内見学		下曽我小学校 打合せ	
15:00	ホール下見・ 打合せ	↓			
16:00	↓			れんげ幼稚園 打合せ	↓
17:00	↓				ラジオ出演
18:00	インリーチ			公募 WS①	
19:00	↓			↓	
20:00	↓				
21:00	交流会			交流会	
22:00					

	実施期間						
	9/30 (月)	10/1 (火)	10/2 (水)	10/3 (木)	10/4 (金)	10/5 (土)	10/6 (日)
9:00							
10:00		れんげ幼稚園 アウトリーチ①	下曽我小学校 アウトリーチ				WS 作品 GP
11:00		れんげ幼稚園 アウトリーチ②	↓	リハーサル	照明シュート	照明手直し	
12:00			給食交流	↓		↓	
13:00				↓		↓	
14:00				↓		WS 参加者 自主稽古	公演
15:00	打合せ	打合せ	片浦小学校 アウトリーチ	↓	ゲネプロ (アーティスト作品)	↓	↓
16:00	↓	↓	↓	場当り	↓	↓	バラシ
17:00	↓	↓		↓	↓	↓	懇親会打上げ
18:00		公募 WS②	WS 作品稽古①	WS 作品稽古②	WS 作品稽古③	WS 作品 リハーサル	
19:00	交流会	↓	↓	↓	↓	↓	
20:00		↓	↓	↓	↓	↓	
21:00							
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

園の希望は、①運動会のため園児1人1人のポーズを作る、②自由な発想をはぐくむ経験をさせること。WSでは、①最初に挨拶によって、声の呼応を繰り返し、徐々に動きの呼応に展開していき、園児は、身体や対話によって動きをまねた。次に、②順々にポーズし、みんながそれをまねるというゲームをおこない、楽しい雰囲気の中で園児が自発的にポーズを出せるように誘導した。まねて踊ることはできたが、ポーズを作り出すことができず、躊躇する園児も少なくなかった。③最後に舞台上で一斉にいくつかのポーズを見せた。動作の緩急やシーン切り替えを巧みに組み合わせた内容なので、園児たちは終始集中して取り組んでいた。

10月1日（火）10:00~10:45

れんげ幼稚園 5歳児 24名



●アウトリーチ②

2回目は、ポーズを作るのではなく、純粋にダンスの楽しさを体感できるような内容に変更した。1回目と同様に①声の対話が身振りの対話へと自然に転換し、園児の緊張感をほぐした。②次にポーズのまねっこゲームを行うが、今度はダンサーが希望する子どもにポーズを作るようにした。すると、「私も」「僕も」とポーズを作ってもらうことに興味を示し、1人のポーズを夢中になってみんながまねをする流れができた。③最後に2人1組で体の一部分を離さないようにして教室の端から端まで移動するゲームを行った。相手の気持ちを想像して動かないとすぐに離れてしまう。意識的に他人に触れる経験を通じ、園児は他者を思いやることを体験的に学べた。

10月1日（火）11:00~11:45

れんげ幼稚園 5歳児 23名



●アウトリーチ③

学校の希望は、①他者への思いやりをはぐくむこと、②自己を堂々と表現できるようになること。

ポーズのまね、2人1組でくっついて動くこと、動く方向のみ指示して好きにポーズをとるなど、ゲーム性のある要素をたくさん取り入れ、それらを組み合わせることにより、自然に身体表現を実現させた。また、手をつないだり、体の部分を接触させたりするなど、他者の大切さを体感させる動作が多く含まれていた。児童は活発で意欲的だった。さらに、普段は自発的でない児童が積極的に加わったり、病気のため見学の児童が輪に入ったり、音楽に合わせてゆっくり体を動かすなど、身体への働きかけによって子どもの心が解放された瞬間がみられた。

10月2日（水）10:40~12:15

小田原市立下曽我小学校 4年生 34名



●アウトリーチ④

学童の1～6年生が参加した。児童は元気はつらつとしていて、リラックスしていたため、ワークショップも音と動きに導かれ、自然で即興性の高い雰囲気のなか進行した。小規模校なので、学年の隔てがなく仲がよく、学童参加者にも連帯感があった。音楽やリズムに合わせ、元気に走り、動き、踊りまくる。参加者はみな、笑顔で汗だくになって走り回っていた。途中で小さな男の子が「ダンスって楽しいねえ！」と笑顔でダンサーに伝えたという。授業時間外におこなわれたこのワークショップは、児童がシンプルに動作・リズム・音の集積としての「ダンス」をそれぞれの感じ方で理解し、楽しく体験することができるものとなった。

10月2日（水）15:30～16:20

小田原市立片浦小学校放課後子ども教室 1～6年生 13名



●公募型ワークショップ①

秋のワークショップの参加者を募る意図で無料の「おためし」講座として開催。未経験者含め16名（男性2名、女性14名）が参加。最初、田畑さんが自己紹介のような感じでダンスを披露し、参加者の体に働きかけながらコミュニケーションを取っていった。体と心をほぐした後、2人1組の動きへ展開し、自由な動きから徐々に振り付け、最後には参加者が2班に別れ、即興的なダンスを披露した。あえて完成像を示さず、個々のゲーム的な動きを組み合わせ、振りを作り上げていく手法が面白く感じた。ゲーム的な命題（交互に相手の体を動かすことや体の一部を接触させて動くこと）に集中することが、自然にダンスにつながり、楽しくダンスを作れたことが、参加者にも好評だった。

8月20日（火）18:30～20:30

小田原市民会館 中学生以上 16名



●公募型ワークショップ②

12名の参加者（女性8名、男性4名）が集まった。ストレッチの後、自分のポーズを一人一人が披露し、皆でまねをした。ダンス経験者も多く、凝ったポーズも多く、一気に場が和んだ。ストレッチの後はさっそく発表に関わるレッスンに入った。①全員が順番でソロの踊りを披露。②2組に別れ、集団のポーズと動きをグループで作った。田畑さん、王下さんがそれぞれのレッスンを見て、参加者が考えた動きの特長を惹き出すようなアドバイスを与えた。ダンサーの構想通りに稽古をつけるのではなく、参加者の個性や意思を尊重した助言や稽古を行うことによって、時間や手間がかかっても参加者のための作品を作るという田畑さんの思いが伝わった。

10月1日（火）18:30～20:30

小田原市民会館 高校生以上 12名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先が決まっていなかったため、この機会に多くの先生に実際に体験してもらおうと、市内の幼稚園、小学校に「教育者のためのダンス講習会」というチラシを配布し、10人の教諭が集まった。ストレッチの後、2グループに別れ、振りを考え、最後は舞台上で発表した。現場で園児や児童のダンスを指導している先生ばかりなので、振り付けもどんどん進んでいき、発表時もおおじせず完成度が高かった。インリーチ体験のあと、4校からアウトリーチの申し込みをいただいた。様々な個性をすべて肯定するような自由さがあるコンテンポラリー・ダンスの魅力を体験し、児童や園児にも紹介したくなったという声があがった。

5月14日（火）18:30～20:30

小田原市民会館 幼稚園・小学校教諭・ホール関係者 15名



地域交流プログラム内容

10月1日(水)～5日(土) 一般ワークショップ～創作 12名

●仲間として

参加者は13歳から68歳まで12人。初心者や、バレエが好きな中学生まで幅広い。公演の前半で「創って踊る！心躍る！小田原ラブソディ！」として発表するので、ほぼ一週間、連日連夜稽古の厳しい日程。期待と緊張のせいか最初は硬い雰囲気だったが、初日に田畑さんが「仲間として一緒に作品を作りたい」というスタンスを伝え、和やかでうちとけた雰囲気になった。

●いいところをドンドンのばす

作品は、個々に作られた集団の動きとポーズ、ソロ、デュオを組み合わせ段階的に作っていった。ダンサーは大まかな方向性を提示、参加者はその中で個性を表現する。基本は参加者の意思や試みを尊重し、ダンサーはオリジナルの動きやポーズの魅力を惹き出し、洗練させるような指導を行った。

●えっさホイとコラボ

小田原はよさこい踊りの一種（えっさホイ踊り）が盛んな土地。作品に小田原らしさを加えようと、えっさホイで使用する「猿子」という楽器を取り入れていただけた。市民の愛着がある要素を作品に取り入れてもらえたのは嬉しいことであり、参加者も鑑賞者も喜んでいた。

●ダンスに大切なもの

参加者は仕事や学校の後でほぼ連日通い、一生懸命取り組んだ。練習の段階でもクオリティが高く、安心して見ていられたが、稽古最終日の終わりに田畑さんが時間を取り、参加者に一番大切な心構えを伝えた。「堂々としていればかっこよい」「間違えたと思うな」など自分の経験を交えた誠実なアドバイスを語った。ダンスを志す若い人たちには忘れられない言葉になったと思う。

●成果発表

照明のなかで、生き生きと堂々と踊っていただいた。市が取り組んでいる市民参加事業の素晴らしい前例になった。



公演

『田畑真希コンテンポラリー・ダンス・プロジェクト』

【演 目】『創って踊る！心躍る！小田原ラプソディ！』
(ワークショップ作品)
『メルヘン ODAWARA Version』

【日 時】10月6日(日) 14:00 開演

【出演者】田畑 真希 王下 貴司 カスヤマリコ
デジ(音楽)
ワークショップ参加者12名

【入場料金】一般1,500円 高校生以下800円
(当日各200円増)

【会 場】小田原市民会館 小ホール

【入場者数】141 名



●ねらい：小田原ではコンテンポラリーダンスの公演は初めてだったので、田畑さんのダンスの魅力や演劇的空間を存分に味わえるような作品を希望した。重ねて、この機会を田畑さんにも「なにかを得る」機会にしていきたいと考えた。

●作品：田畑さんから、5月の第1回打ち合わせで、『メルヘン』を希望していると伺った。この作品は2012年に20分間の作品として上演、今回45分に編成しなおして小田原オリジナルヴァージョンを作っていたという。田畑さん自身の問題意識が、いまこのテーマにあり、「もう少し探求したい」と述べたことが決め手となった。この作品はウッドベースの生演奏に、ダンサーも踊りつつ演奏する実験的な内容。おそらく、「動き」「リズム」「音」などダンスの基本的な要素に取り組んでいるのだと感じた。実見してみると、動きと音の「エネルギー」に鑑賞者がつつまれるような印象を持った。

●広報：市内小中学校、近隣文化施設、湘南地区のダンス教室200校にチラシやポスターを配布したほか、地域のラジオ局FMおだわらに依頼し、田畑さんに出演し、魅力を語っていただいた。また、チケットプレゼントを行い、話題性を作った。

●舞台設備：舞台が狭いので300人収容の客席に平土間舞台を作った。下見時に四方囲いの舞台にすることが決まったが、客席上には客電しか機材がないため、照明の足場をいかに整えるかが課題となった。予算と日数で検討し、仮足場を購入した。テクニカルスタッフが照明プランから機材組まで全て担当した。会館スタッフによると、開館以来初めて今回のような斬新な使い方をしたという。

●この事業への応募動機

小田原市では、老朽化した小田原市民会館にかわる新たな芸術文化活動の拠点として平成 28 年度完成予定の芸術文化創造センターの整備を進め、開館に向けソフト事業の基礎づくりを行っているが、ダンスや舞踏の事業に取り組んだ経験はなかった。ダン活を通じ、小田原にしながら多様な芸術ジャンルに触れる機会を積極的に設けようと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

本市では、身体表現がさかんな土地柄といえるが、ジャンル間の交流がなかった。鑑賞やワークショップを通じ、コンテンポラリーダンスとの出会いをきっかけに、自身の表現の糧としてほしいと考えた。さらに、市民作品を作ることによって、新しいコミュニティが小田原にでき、地域文化の活性を促したいと考えた。結果として、さまざまな立場でダンスに関わっている意欲溢れる 12 人の参加者が集まった。なにより、一人も途中で辞めることなく、発表までやり遂げたことが素晴らしいと感じた。発表後は打ち上げを行い、連絡先を交換しあい、ゆるやかなコミュニティができたように思われる。

●企画実施にあたり苦労した点

集客 プレイガイドの売れ行きが伸び悩んだことが心配だった。工夫は以下。①東海道沿線のダンス教室 200 か所にチラシとポスターを送付。②ダンス事業を継続している茅ヶ崎市民文化会館に広報の相談をした。親切なアドバイスをいただき、周辺のダンス教室、新聞社などにも広めていただいた。③アウトリーチ時に保護者に広報。④地域の新聞や折り込み広告にチケットプレゼントを実施。⑤主催者（市役所、小田原市事業協会）、ダンサーの関係者などに関係者割を実施した。141 名中、関係者売りは 3 分の 1 を占め、当日売りも数多出了。ダンサーや地域創造担当者もチームのように一丸となって集客に協力していただいたため、遠方から来る方が多かったと推測される。

●事業の成果

・涙や笑いが起るほど公演内容もすばらしく、集客はチケット販売数を上回り増席したほど成功だった。

・ワークショップ参加者も上手い人が初心者フォローし、中学生を年配者が配慮するような良好な関係を作っており、一つの作品を共有することで絆を深めた。

・ホールにとってはいままではなかった空間と照明を作った初めての試みとなった。平土間での公演は小田原では初めてだが、平土間は新センターで新たに取り入れる予定なので、関係者や市民にとっては、田畑さんの作品を通じて囲み舞台の良さや特長を知る好機となった。

●反省点、今後の課題など

設備の悪い施設でダン活を引き受けていただいたこと、ホールの人員体制が薄く、全日担当一人が対応したので不便をおかけした。温かく対応していただいたことを感謝している。

アウトリーチでは、学校現場にダンスのニーズが高まっていることが分かり、またワークショップ参加者も小田原でコンテンポラリーダンスを学びたいと考えている人が多いことが分かった。今後は、今回開拓した層とのつながりを維持し、潜在的なニーズを開拓するためにも一歩一歩でも、ダンスの事業を継続し続けることが大切だと考える。

●この地域のダン活の特徴

小田原市では、築 50 年となる小田原市民会館に替わる新たな芸術文化創造拠点として、新たな芸術文化創造センターの整備が平成 28 年度完成予定で計画中である。その開館に先立つ期間、ソフト事業の基礎づくりを進めたいと考え、平成 23 年度よりアウトリーチやワークショップなど、将来の芸術文化の担い手となる子ども達への育成普及事業や、創造を刺激するような鑑賞事業を展開しており、今回、初のコンテンポラリーダンス事業となった。

【アウトリーチ】文化の裾野をひろげるために、上記の考えにもとづき、アウトリーチは幼稚園年長組、小学校 4 年生、小規模特認校放課後子ども教室で実施した。子ども達はからだを動かす楽しさを十分に体験できたと思う。特にアシスタントの男性ダンサーは子ども達に大人気で、子ども達が身体的コミュニケーションをこれほどまでに求めているのかと驚かされた。(余談だが、この男性ダンサー、校長先生から「教員免許、持っていますか？」と産休に入られる担任の先生の後任にスカウトされました！)

【公募型ワークショップ】作品発表を前提とした 4 日間の公募型ワークショップには、中学 1 年生から 68 歳までの 12 名集まった。バレエを習う中高生から、演劇の人、通信制美術大でワークショップについてレポートするために参加する方などが、市内外から参加された。

【公演】ワークショップ、公演の会場となった小ホールは、ダンス公演には少々むずかしい空間であった。ダンス公演をするには小さい作り付けの舞台、従来の客席部分の平戸間天井にはバトンがなく、床は固いピータイル。しかし今回、管理スタッフ（運営を業務委託されている小田原市事業協会）、技術スタッフ（民間会社）の協力により、照明バトンの代わりにイントレが 3 台新たに購入され、新たなダンス空間に生まれ変わり、今後しばらく、新しいホールが完成するまでの間、この小ホールがダンスや演劇の場として使いやすくなった。パイプ椅子や座布団をつかった客席の設営や、荷物や靴の預かり、当日配布物をどのように、いつ配るか、など、小劇場スタイルならではの課題も一通り経験することになった。また、当日配布パンフレット、プレトーク、ポストトークをどのような内容にするかも、丁寧な検討が加えられた。「ダンス」という新しいジャンルを導入するにともない、新しい様々な課題をも検討する良い機会となったと思う。「鑑賞者が自由な発想や表現をはぐくむきっかけとしたい」という当初の目標は十分に達成された。

●課題とこれからに向けて

今回のダン活全体を通して、人と一緒にからだを動かす喜び、喜びに満ちたからだを見る喜びが、アウトリーチ、公募型ワークショップ、公演に関わった多くの方に実感していただけたと思う。新しいセンターの事業として、コンテンポラリーダンスが大きな可能性を持っていること、小田原市民の皆さんに受け入れられる可能が充分にあることを感じる事ができた。今後の展開を楽しみにしています。

樺のホール 実施データ

実施団体	樺のホール活性化共同体 代表 アクティオ株式会社
実施ホール	樺のホール
実施期間	平成 25 年 10 月 31 日(木)、12 月 2 日(月)～8 日(日)
アーティスト等	アーティスト：赤丸急上昇 共演者：池内 文 テクニカルスタッフ等：長井雅浩（映像）
コーディネーター	志賀玲子
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 5 月 16 日（木）18:30～20:00、ホール職員・アウトリーチ先関係者・地域団体、20 名、小ホール ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 12 月 2 日（月）13:15～14:00、野田市立東部中学校、2 年 1 組、28 名、体育館 ② 12 月 2 日（月）14:10～14:55、野田市立東部中学校、2 年 2 組、27 名、体育館 ③ 12 月 3 日（水）18:45～20:00、NPO 法人野田子ども劇場、ソーラン野田組、25 名、旧商工会館 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 10 月31日（木）11:00～13:00、中学生以上、無料、12 名、小ホール舞台上 ② 12 月 8 日（日）13:00～14:30、3 歳～小学校低学年までの児童と大人のペア、無料、8 組 17 名、 野田市中央コミュニティ会館 ※60 歳以上を対象に 3 回の WS(稽古)を実施し公演にて作品を発表	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『Rise vs Fall』 『～カラダカタル歴史、踊るカラダは未来を語る～「人生いつもココカラダ」』（高齢者作品） 『太陽と月』 ■ 12 月 7 日（土）15:00 開演（14:30 開場） ■ 一般 1,000 円（当日 1,200 円）、高校生以下無料 ■ 樺のホール 小ホール ■ 51 名	
	

スケジュール

千葉県野田市／櫛のホール

	下見①	
	5/16(木)	5/17(金)
9:00		
10:00		打ち合わせ
11:00	野田入り	
12:00	昼食・打合せ	
13:00	↓	
14:00	東部中学校 下見	
15:00	↓	
16:00	打ち合わせ	↓
17:00	準備	帰途
18:00	インリーチ	
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	10/30(水)	10/31(木)
		準備
		公募 WS
		↓
野田子ども劇場 下見		
↓		打ち合わせ
テクニカル打合せ		↓
↓		↓
		帰途
↓		
懇親会		
↓		

	実施期間						
	12/2(月)	12/3(火)	12/4(水)	12/5(木)	12/6(金)	12/7(土)	12/8(日)
9:00		リノ敷き			準備		
10:00						ゲネプロ	
11:00						↓	
12:00	野田入り	準備	準備	準備	↓	↓	
13:00	東部中学校 アウトリーチ①	高齢者作品 稽古①	高齢者作品 稽古②	高齢者作品 稽古③	リハ (WS 作品)		公募 WS
14:00	東部中学校 アウトリーチ②	↓	↓	↓	↓		↓
15:00		↓	↓	↓	↓	公演	
16:00	ホール移動休憩	↓	↓	↓	↓	↓	帰途
17:00	アウトリーチ 振返り	休憩	休憩	休憩	休憩	高齢者作品 出演者との交流会	
18:00		野田子ども劇場 アウトリーチ	作品確認	照明合わせ	リハ (アーティスト作品)		
19:00		↓	↓	↓	↓	打ち上げ	
20:00			↓	↓	↓	↓	
21:00			↓	↓	↓	↓	
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ①②

野田市立東部中学校でのアウトリーチは、2年生2クラスを対象にそれぞれ45分でおこなった。東部中学校では4年前より毎年ダンス発表会を開催し、クラス対抗でコンテストを行っているため、リズムダンスにはかなり親しんでいる。

自分で動きを考えること、自分が他者をリードしていくことへの戸惑いを感じられたが、時間が経つにつれ、それぞれの個性や工夫がみられるようになり、笑顔も増えていった。

担当の先生からは「時期が合えばまたやってみたい」との感想もいただいた。

12月2日(月) ①13:15~14:00、②14:10~14:55

野田市立東部中学校 ①2年1組 28名 ②2年2組 27名



●アウトリーチ③

遅い段階での声掛けになったが、「自由な発想を大切にしたい」という子ども劇場関係者やソーラン指導者の思いにより実現できた。

参加者は小学生から大人まで幅広い年齢層に及んだが、開始当初から「これから何をするんだろう？」と目を輝かせて、好奇心いっぱいに取り組んでいた。10代の参加者には最初戸惑いが見られたが、ゲームから徐々にダンスらしい動きがつくられていくにつれ、大きな動きや笑顔が見られるようになっていった。

最後にグループごとに披露した即興作品も個性があふれ、終始笑い声の絶えないアウトリーチになった。

12月3日(火) 18:45~20:00

NP0 法人野田子ども劇場 ソーラン野田組と保護者 25名



●公募型ワークショップ①

ほとんどがダンス未経験の中高年というメンバーで行われた。参加者をどのくらい集められるのか不安に思い、櫛のホール(野田公民館)の利用者にも積極的に声掛けを行った。

初めに丸山さんが『祝田祝電』を披露され、皆で笑いあったところから不安そうな表情が一気にやわらいで、全員が昔からの知り合いかと錯覚するほど打ち解けた雰囲気ができた。

見えない何かを受け渡しあう動作をつなげて、ゆったりとした動きの美しいダンスが生まれていくのは圧巻だった。

10月31日(木) 11:00~13:00

櫛のホール 中学生以上 12名



●公募型ワークショップ②

企画全体に渡って、できるだけ多くの年齢層にアプローチできればと考え、小さな子どもと現役世代の方に参加していただけるプログラムをつくった。

子どもと『大人』のペアということで、特に親子でなくとも参加できるように検討したが、結果としては全て親子での参加となった。

ペアでの募集ではあったが、ご夫婦での参加や父子での参加など、これまで開催してきた親子向け事業でもなかなかない組み合わせの応募があり、今後の事業に大いに参考になった。

大人には恥ずかしそうな様子も散見されたが、子どもたちとコミュニケーションしながら積極的に取り組んでいただけた。

12月8日（日） 13:00～14:30

野田市中央コミュニティ会館

3歳～小学校低学年までの児童と大人のペア 8組 17名



●ワークショップ作品稽古

このワークショップは参加者と一緒に作品をつくり、公演に出演していただくことを目的として行った。

60歳以上を対象としていること、また、数日間続けて参加していただくことが応募にブレーキをかけることもあり、最終参加者は3名にとどまったが、ダンス経験者・劇団員・未経験者という顔ぶれで、濃密なワークショップとなった。

アーティストにとっても60歳以上の方と作品をつくるのは初めてのことではあったが、初回から作品を意識して身体を動かしていただいたことで、コンテンポラリーダンスがどのようなものなのかより強く印象付けられたのではないかと感じる。

12月3日（火）～5日（木） 13:30～16:30

櫛のホール 60歳以上 3日6名 4日3名 5日3名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

ホール職員の他、アウトリーチ先の中学校の先生とダンス発表会でダンスリーダーをつとめる中学生、地域団体の関係者等が参加した。

コンテンポラリーダンスがどういうものであるかということは、言葉ではなかなか伝わらないので、企画担当者だけでなく、関係者が実際にワークショップで体験できる機会があることは非常にありがたかった。

ホール職員にはこれから普段の何倍もの時間をかけて取り組む事業について知ってもらうこと、アウトリーチ先の方には、アウトリーチで何が行われるのかを知っていただくこと、地域団体の方には本番のワークショップやアウトリーチへの参加を促す機会としていただくことを目的として参加していただいた。

インリーチ参加者が、本番の作品づくりワークショップにも参加してくださるなど、関心を高める良い機会にもなった。

5月16日（木）18:30～20:00

櫛のホール ホール職員・アウトリーチ関係者ほか 20名



地域交流プログラム内容

12月3日（火） NPO 法人野田子ども劇場 ソーラン野田組

NPO 法人野田子ども劇場は、子どもの権利条約の精神に基づき“自主的・文化的・創造的な体験活動”を行い、子どもと大人が共に育ちあう地域社会づくりに寄与することを目的として設立された団体である。ソーラン野田組ではロックソーランや、鳴子を持って踊る“よっちゃれ”に取り組んでいるが、子どもたちの自由な発想を何よりも大切にしている方針から、声掛けが遅かったにもかかわらず「おもしろそう！」と受け入れてくれた。

●だるまさんが〇〇した！

最初はゲームから。バナナ鬼や、鬼の言うとおりのポーズをする「だるまさんが〇〇した！」などのゲームで身体をほぐした。先頭の人以外は目をつむって、先頭の人の動きを真似してついていく電車ゲームでは、身体や動き、周りの状況を意識しながら動くことが求められた。

●「動き」から「ダンス」へ

相手のポーズの中から 3 つのすきまを探して手足や身体全体を通してあそぶ「すきまゲーム」や、各個人が一つポーズを考え、それぞれをつなぎ合わせてグループ独自のダンスをつくるワークを通して、徐々に「動き」から「ダンス」に近づいていった。

●作品披露と交流

最後に、グループごとに音楽に合わせてダンスを披露し、多人数によるすきまゲームで、ゆったりとした雰囲気の中アウトリーチが終了した。

この後、予定にはなかったが、野田組の皆さんが「お礼に」と『どっこいしょ』を披露してくださり、踊り手同士の交流もできた。

アンケートでは、子どもたちからも「またあそぼうね」「もっとやりたい！」などの声があった。



公演

『赤丸急上昇 DANCE 人生劇場』

【演 目】『Rise vs Fall』

『～カラダカタル歴史、踊るカラダは未来を語る～

「人生いつもココカラダ」』（高齢者作品）

『太陽と月』

【日 時】12月7日(土) 15:00 開演

【出演者】赤丸急上昇(赤松美智代+丸山陽子)

池内文 佐野和幸

高齢者作品参加者 3名

【入場料金】一般 1,000円(当日 1,200円)

高校生以下 無料

【会 場】櫛のホール 小ホール

【入場者数】51 名



櫛のホール・小ホールは、野田市野田公民館の施設の一つに数えられている。本企画の担当者も、これまでは公民館職員として講座の企画を中心に担当しており、舞台制作・運営を企画段階から担うのは初めての経験だった。

当ホールでは照明や舞台装置、音響設備に関しては特に問題なく準備ができ、追加機材も無かった。

広報では、東武鉄道野田線など沿線を中心に都内まで、公共ホールや大学など通常より範囲を広げてポスターとチラシの掲示依頼をしたほか、ホームページへの記事掲載、自治会回覧、市内イベントでのチラシ折込、タウン誌への記事掲載依頼などをおこなったが、なかなか集客にはつながらず苦戦した。

しかし、アウトリーチでアーティストと直接会った方が多く来場されたため、客席から時おり笑いも漏れるような親近感溢れる公演となった。中学生が興味を持ってくれたことも、いつもと違う嬉しい変化だった。

演目については、アーティストに一任した。なかでも『太陽と月』は赤丸急上昇さんが野田入り直前まで創り込み、野田オリジナルバージョンとして上演していただいた。60歳以上の方に出演していただいたワークショップ参加者作品も来場者に好評だった。

アンケートでは「エネルギー感あるダンスにパワーをもらった」「あまり見たことがないジャンルだが、自由な感じがすてき」などのご意見をいただいた。

アウトリーチ（出前講座）実施報告

12/2
13:15～14:55

野田市立東部中学校

13:15～14:00 2年1組 28名
14:10～14:55 2年2組 27名

45分の1コマという短い出会いでしたが、中学生の繊細目時々太直な個性に出会いました。
一気に関わり合ったかと思いきや、次の瞬間あつた瞬間に個人個人で広がり自由に面白さを発見する。人の後ろに隠れているように振舞うは確信前向きで隠れていない。だけでなく自分もよって悪さあまのじやく。今回、アウトリーチでは自分の力で創造してものを生み出すワークを中心に行いました。命の無い、自由な表現の世界に顔を出しながら楽しみながらその時間を過ごす中学生に向き合う時間をしたかった事が大変ありがたかったです。多感な時期にこそ、創造力が育つ時期。これからはお互いに「やっつこいねい」事へのトライをしてください。

12/3
18:45～20:00

NPO法人野田子ども劇場

「ソーラン野田組」
小学1年生～大人まで 25名

子ども劇場の子ども達に出会った瞬間がよいできました。
一言で言えば「豊か」。
自由があって 素直で
思いやりにもあふれた感性の場所。
子どもは未来の宝です。
こんな場所を作れる大人がいることも本当に本当にすごいです。
野田の皆さん。もっと自慢した方がいいんですよこのコミュニティ自体に私は感動でした。

**アーティスト、ホール職員も
すてきな地域交流体験ができました。**

**参加して下さった児童・生徒の皆さん、保護者の皆さん、先生方、
どうもありがとうございました！**

赤丸急上昇DANCE人生劇場

～ときどきの一週間であなたに幸あれ!!～

公演 2013 12/7 15:00開演(劇場は開演の30分前) 11:00開演(小ホールは開演の30分前)
小ホール・小ホール
チケット料金
観客一人1,000円(税別/1,200円)
高校生以下無料

本日の上演作品

「Rise vs Fall」

作・原村・赤丸急上昇
出・演：赤丸急上昇、丸山 陽子

**～カラダカタル歴史、踊るカラダは未来を語る～
「人生いつもココカラダ」(ワークショップ参加者作品)**

作・原村・赤丸急上昇
出・演：赤丸急上昇、丸山 陽子、堀内文、佐野 幸平

「太陽と月」～The principals of Yin (陰) and Yang (陽)～

作・原村・赤丸急上昇
出・演：赤丸急上昇、丸山 陽子、堀内文、佐野 幸平

舞臺監督：野田 紀夫 音楽：浅井 裕治 照明：伊藤 一樹 映像制作：大竹 謙

主催：NPO法人赤丸急上昇、野田市立東部中学校、野田市立中部中学校、野田市立西部中学校、野田市立北部中学校、野田市立南部中学校、野田市立東部中学校、野田市立中部中学校、野田市立西部中学校、野田市立北部中学校、野田市立南部中学校

— 67 —

●この事業への応募動機

当館は平成 23 年度より指定管理者制度を導入し、ホールならびに周辺地域の活性化を図っている。当初より学校や地域団体、地元企業と連携することを目指して、地域団体と共催でイベントを開催したり、商工会議所のイベントに参加するなどしてきたが、今後さらに連携を深めていくにあたり、アウトリーチなどこれまでとは違う手法を積極的に検討し、企画に関する経験を積むことができればと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

当初はもっと中高生にアプローチできればと考えていたが、1 回目の下見の際に出会った中高年の方々のパワーと好奇心に魅力を感じ、中高年世代を巻き込むプログラムを盛り込んでいくことになった。

1 週間にわたるプログラムなので、この機会に幅広い世代の団体・個人とのつながりを拡大することを目指した。

●企画実施にあたり苦労した点

事業の実施時期が高校の定期試験の時期にかかっていたため、高校生の参加が得られなかった。中学校でのアウトリーチに関しても先方の希望時期とずれがあった。施設利用者との関係上、開催時期を学校の予定に合わせる事が難しい面もあり、難航した。

また、「コンテンポラリーダンスとはどういうものか?」、「この事業で何をえられるのか?」を説明しきれず、なかなか賛同を得ることができなかった。

●事業の成果

アウトリーチで中学生ならびに中学校と接点を持つことができた。公民館の視点から見ても中高生は利用の少ない世代であるため、重要な機会だった。

また、これまでは地域の団体が主体となって企画した事業に参画する形で行ってきた地域連携活動に対し、ホール側から企画を持ちこむという逆の動きができたことも、成果として挙げてよいと考える。

●反省点、今後の課題など

広報と集客の面では、もっと他のアピール方法がなかったものかと思う。10 月のワークショップにはケーブルテレビや新聞の取材に来ていただけるなど、これまでよりも広報の幅が広がったことは事実だが、集客につなげるのは難しかった。コンテンポラリーダンスやその考え方がなかなか受け入れられにくいということもあると思うが、それをどう伝えるか、どう興味をひくかが問題だった。

さらには、時期が合えば高校生の動員も見込めた可能性があり、対象となる学校の学年暦や行事予定の他、地域団体の過去の行事日程等もできるだけ調査するなど、より地域に目を配りつつ取り組む必要があったと反省している。

数が全てというわけではないと思うが、実際に本公演では 100 名の目標値に届かず、『太陽と月』の野田バージョンを創ってまで臨んでくれたアーティストの気持ちに十分応えられなかったことに悔いが残る。

また、多くの人を巻き込んで事業を進めていくということに対して、担当者自身の自覚と調整能力が不足していたと感じる。この「ダン活」で得た経験をもとに、今後はより綿密に各団体間・職員間の連携をはかり、自分自身が企画をリードしていく立場であることをしっかり意識して取り組んでいきたい。

地域連携の面でも、本企画を通して得られた学校や地域団体との接点を活かして、協働していきたい。

●この地域のダン活の特徴

野田市におけるダン活は、「櫂のホール」という公民館の中にある小ホールを舞台に、＜赤丸急上昇 DANCE 人生劇場～どきどきの一週間であなたに幸あれ！＞と銘打ち、長期プログラムであるダン活の特性を生かし、幅広い世代の地域団体や個人とのつながりを開拓、深めることを目指し、事業を企画実施した。

【アウトリーチ】野田市立東部中学校 2 年生 2 クラスでの実施は、野田市の学校におけるアウトリーチ事業の記念すべき第一歩となった。櫂のホールは、指定管理者制度により民間会社によって運営されている公民館である。当初、学校行事のスケジュールとの兼ね合いや、民間運営の社会教育施設が学校教育に関わることへの理解がなかなか得られず、コーディネートは難航。最終的には教育委員会の推薦で、当該年度、体育の研究指定校であり、学級単位でのダンスフェスティバル実施という実績のある東部中学校が決定した。東部中学ではダンスリーダーと呼ばれる生徒を中心に、今、流行のダンスをアレンジしたダンスを学級単位で創作し、すでに皆で踊る楽しみは充分知っていると思われるが、今回、いつもとは違うダンスに少々戸惑いながらも、新しい出会いを楽しんでくれた。教育委員会の学校教育部長も見学に来校され、アウトリーチ事業の今後の展開が期待される。もう一件は、NPO 法人野田子ども劇場「ソーラン野田組」の小学生から大人までの 25 名。ゲームのような設定でどんどん新しい動きが生まれてくるワークショップは楽しさ満点で、ワークショップの最後に踊ってみせてくれたソーランの中に、今やった自由な動きをすぐに取り入れようとする子ども達の柔軟な姿があった。

【公募型ワークショップ】子ども&大人ペア対象の単発ワークショップと、作品発表を前提とした 60 歳以上の方対象の連続ワークショップを実施した。単発ワークショップは和室で実施したこともあり、和気あいあい、リラックスしたムードで楽しい時間が流れた。連続ワークショップは、下見時に会った、公民館利用者・地元の文化団体の中心であるシニア層のパワフルさに触発されたアーティストがぜひ！と企画。新聞に記事が掲載されたこともあり、初回には 10 名近い方々が楽しめたが、最終的に舞台に立つことになったのは 3 名の方々であった。人数が少ない分、アーティストと参加者が向き合い、この方々でなければできないダンスが生み出された。

【公演】アーティスト作品 2 作品の間に、ワークショップ作品をはさんでの公演。市内循環バスや様々な場所での宣伝に努められたが、集客はかなり苦戦された。しかし、新しいジャンルの公演をするにあたり、アーティストをはさんで、制作スタッフと舞台技術スタッフが今まで以上に密なコミュニケーションをとることになった。

●課題とこれからに向けて

ワークショップ開始前などに、毎日、参加者、スタッフ全員でストレッチや体のほぐし合いをやり、赤丸急上昇さんの人をつなげる力が発揮され、とても良い関係が新たに生まれたようである。事業を企画実施していく母体の強化にダンスが少しはお役に立ったように思う。ダンスの力をスタッフが実感できたのなら、まずははじめの第一歩は成功といえるのではないかな。若年層へのアプローチなど課題が多いだろうが、今後の取り組みに期待したい。

富山市民プラザ 実施データ

実施団体	株式会社富山市民プラザ
実施ホール	富山市民プラザ
実施期間	平成 25 年 12 月 3 日(火)～12 月 9 日(月)
アーティスト等	アーティスト：田畑真希 アシスタント：カスヤマリコ 共演者：王下貴司
コーディネーター	菊丸喜美子
■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 6 月 19 日(水) 18:00～19:00、ホール・館内テナント・アウトリーチ関係者、30 名、アトリウム ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 12 月 3 日(火) 13:45～14:45、富山県立ふるさと支援学校、小・中・高等部、39 名、体育館 ② 12 月 4 日(水) 9:35～11:05、富山市立芝園小学校、3 年 2 組、28 名、体育館 ③ 12 月 4 日(水) 15:00～16:30、富山大学、人間発達科学部、34 名、多目的ホール ④ 12 月 5 日(木) 13:25～14:15、富山市立芝園中学校、3 年 B 組、32 名、体育館 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 12 月 4 日(水) 19:00～21:00、小学生以上、500 円、37 名、アトリウム ② 12 月 5 日(木) 10:00～11:30、子育て中のお母さん、1,500 円(ランチ付き)、10 組、ギャラリー	
公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『富山のマーチ』(ワークショップ作品) 『メルヘン』 ■ 12 月 8 日(日)、15:00 開演(14:30 開場) ■ 前売 1,200 円 当日 1,500 円(全席指定) ■ 富山市民プラザ アンサンブルホール ■ 165 名	
	

スケジュール

富山県富山市／富山市民プラザ

	下見①			下見②	
	6/19 (水)	6/20 (木)		10/23 (水)	10/24 (木)
9:00		テクニカル打合せ			
10:00		事業打合せ			ケーブル TV 収録
11:00		↓			↓
12:00	富山着	昼食		富山着	昼食
13:00	ホール下見			移動	シティ FM 生出演
14:00	事業打合せ	市内見学		ふるさと支援学校 下見	北日本新聞取材
15:00	↓	↓		移動	打合せ
16:00	インリーチ準備	富山大学下見		芝園中学校 下見	移動
17:00		富山発		移動	富山発
18:00	インリーチ			芝園小学校 下見	
19:00	↓			夕食会	
20:00	懇親会				
21:00					
22:00					

	実施期間						
	12/3 (火)	12/4 (水)	12/5 (木)	12/6 (金)	12/7 (土)	12/8 (日)	12/9 (月)
9:00		芝園小学校 アウトリーチ	準備	リハーサル 公演準備	リハーサル 公演準備		
10:00		↓	ママのための WS	↓	↓		
11:00	富山着	↓	↓	↓	↓	WS 作品 最終通し	
12:00	移動・準備	昼食	母子ランチ	昼食	昼食		帰京
13:00	ふるさと支援学校 アウトリーチ		芝園中学校 アウトリーチ	リハーサル 公演準備	リハーサル 公演準備	開場準備	
14:00	↓	移動・準備	↓	↓	↓	開場	
15:00		富山大学 アウトリーチ		↓	ゲネプロ (WS 作品)	公演	
16:00	移動	↓		照明合わせ	↓	WS 出演者 交流会	
17:00	全体ミーティング	移動		↓	↓		
18:00	↓	準備	準備		サウンドチェック		
19:00	夕食会	公募 WS	WS 作品稽古①	WS 作品稽古②	ゲネプロ (カンパニー作品)	打ち上げ	
20:00		↓	↓	↓	↓		
21:00							
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

ダンスのコミュニケーションツールとしての可能性を感じ、対人関係を得意としない、不登校・心身症・病弱児の生徒が通うふるさと支援学校にて開催した。はじめは緊張気味でほとんどがうつむいていたが、田畑さんのダンスが始まるとペースにどんどん巻き込まれていった。ハイタッチなどアーティストの誘導で動くうちに、少しずつそれぞれの距離や関係が近くなっていく。ずっと輪に入らない男子生徒がいたが、WS 終盤には女子とも一緒に踊り、先頭で率先して取り組むようになっていた。集中の難しい生徒も、それぞれ関心を持って眺めたり、自分達の楽しみ方でダンスを感じていたりした。WS 前後の変化が良い意味で一番大きいアウトリーチとなった。

●アウトリーチ②

ホールに最も近い小学校で実施。明るく素直で元気いっぱいの子供たちで、終始目をキラキラ輝かせて参加していた。アーティストのデモンストレーションではじっと真剣な眼差しでダンスを見つめていた。その後は田畑さんの動き・表現を必死に真似て試行錯誤していたが田畑さんの「一生懸命に、命をかけて、てきとうに」の言葉で開放されたのか、とても自由な表現が出てきた。それから子供たちがどんどん主体的に動き出したのが印象的だった。「もっとやりたい」との声も多数あった。アーティストから、良いものをぐんぐん吸収し、子供達なりのやり方で、ダンスを自分たちのものにしていった。「普段、自分を表現するのが苦手な子が生き生きと楽しそうに踊っていた」（担任の先生談）

●アウトリーチ③

次世代を担う若者、その中でも教育者を目指す学生にぜひダンスを体験してもらいたいと選定。体育教師を目指す男子が多い「地域スポーツコース」と、幼稚園教諭を目指す女子が多い「幼児教育コース」の学生が参加。初対面のぎこちない空気が流れる中、一人ずつダンス（ポーズ）で自己紹介。体を動かすうちに恥ずかしさも解消され少しずつ個性を出すようになった。その後、グループごとにダンスを作る課題が出された。開始時はお互いまったく関わりを持たなかったが、各グループでアイデアを出し合いひとつのダンスを作り上げた。若者らしいノリの良さも手伝って後半は大変な盛り上がりとなった。体操や柔道の受け身など、ダンスに各自の専門スポーツの特色が出ていたのも興味深かった。

12月3日（火）13:45~14:45

富山県立ふるさと支援学校 小・中・高等部 39名

12月4日（水）9:35~11:05

富山市立芝園小学校 3年2組 28名



12月4日（水）15:00~16:30

富山大学 人間発達科学部 34名



●アウトリーチ④

ホールに最も近い中学校で実施。受験を控えた中学3年、期末テスト後に行った。開始時は他のアウトリーチ先より、恥ずかしがる様子が顕著で、見事なまでに男女別のグループに分かれていたが、インリーチに参加した担任の先生が率先して踊って生徒の参加を促してくださった。田畑さんや友達の動きを真似るうちに恥ずかしさが薄れたのか、どんどん調子が上がり、自発的に男女グループ対抗のダンスバトルに発展。クラスがひとつになり大きなうねりを巻き起こしていた。一度踊りだすと開放感からかユニークな動きがたくさんみられた。「クラスみんなで楽しかった」「学校生活で初めてはじけた」という声もあった。アウトリーチ後も、友達同士廊下で踊る姿がみられた。

12月5日（木）13:25～14:15

富山市立芝園中学校 3年B組 32名



●公募型ワークショップ①

「みんなでおどろう」のタイトル通り、ダンス未経験でも誰でも参加できるワークショップを開催。思いがけずあっという間に募集定員に達した。7歳～55歳までの37名のうち、半数はダンス未経験の方。「何が始まるんだろう」という不安と期待が感じられる中、田畑さんのダンスを食い入るようにつめる参加者たち。自分たちも「右、左」と田畑さんの誘導で動くうちに、どんどんダンスらしくなっていく。同じ指示で動いているのに異なる動きになるのが面白い。グループごとにショーイングを行う。見ている方も動いている方も思わず笑みがこぼれる。答えのないダンスの面白さを存分に感じてもらえたようだ。後半は振付を皆で必死に練習。田畑さんのユニークなダンスを全員で楽しんだ。

12月4日（水）19:00～21:00

富山市民プラザ 小学生以上 37名



●公募型ワークショップ②

最初からあたためていた企画ー子育てママのためのダンスWSを実施。ゆったりとした贅沢なダンスの時間となった。対象は母親だが、託児ではなく同じ空間に子供もいられるようにした。小さい子供たち（0歳～3歳、主に赤ちゃん）は泣きながらもアーティストの動きを見て何か感じたのか、途中からはうっとりとして眺めるようになった。親子みんなで輪になって参加者同士でストレッチ。後半は田畑さんとお母さん（と子供）のセッションのような即興ダンスが繰り広げられた。お母さんの動きに合わせ、子供たちも少しずつ表情を変え楽しんでいた。中には「子供が泣いて途中で参加できなかったが、見ていだけでとても楽しく心が癒された。」との声も。ランチ交流も和やかな時間となった。

12月5日（木）10:00～11:30

富山市民プラザ 子育て中のお母さん 10組（親子）



関係者向けワークショップ（インリーチ）

ダン活を開催するにあたり「コンテンポラリーダンスとは何か」を実際に体験してもらう方が説明しやすいと考えて、たくさんの方にお声をかけた。ホール関係者、その他ホールテナントやアウトリーチ候補先の方に来ていただいた。ほとんどダンス未経験で興味のない方だったと思うが、田畑さんには楽しくレッスンしていただき、ダンスに対する不安や、よくわからないイメージは取り除かれたと思う。とくにペアであやつる動きでは男性職員も楽しそうに取り組んでいた。中には、インリーチに参加された方で「また踊りたい」と、後にワークショップと公演に参加してくれた方もいた。まずダンスを知ってもらうという点でとても有意義な時間となった。このインリーチでの写真を告知チラシに使用した。

6月19日（水）18:00～19:00

富山市民プラザ ホール・テナント関係者、アウトリーチ候補先 30名



地域交流プログラム内容

12月4日（水）富山大学人間発達科学部 34名

体育会系の「地域スポーツコース」と、コミュニケーション能力が高い「幼児教育コース」という、同じ学部でもまったく異なる特色の、なおかつ関わりの少ない学生同士が同時に参加することになった。

●アーティストによるデモンストレーション

自己紹介も兼ね「こんなダンスをやっています」とアーティスト田畑さんとアシスタントのカサヤさんが踊った。途中から学生数名も参加させられ、どんどんアーティストの世界に引き込まれる。

●ウォーミングアップ

アーティストの誘導で、歩いたり止まったりハイタッチしたり四つん這いになったり、思わぬ動きで体と心をほぐす。それでも足りないようなので「リンダリンダ」の曲にあわせ体育会系のごとく「走る→ジャンプする」をくり返す。思い切り動いた爽快感からか、会場の空気が溶け出した。

●名前ダンスで自己紹介

輪になり、一人ずつ名前のダンス（ポーズ）で自己紹介。「〇〇です」と、自分のポーズを披露。それを全員で真似て、覚えるという流れ。途中で田畑さんがポーズを構成したダンスを見せ、それを真似するうちに全員がお互いの名前を覚えた。

●グループでダンスをつくる

10人ほどのグループに分かれ2分程度のダンスをつくる。もうやるしかない状況で、名前ダンスをうまく利用したり、新しい動きを入れたり、各グループで工夫してつくる。戸惑いながらも、楽しそうな様子。

●相手をあやつる・相手に動かされる

ペアになり、リーダーは相手に手をかざしあやつる。相手のことも気遣いながら動きを楽しむ。途中で立場を入れ替えたり、他のペアに交ざったり、まわりにも意識を働かせる。言葉のない交流を楽しんだ。

「ノンバーバルコミュニケーションを実感できた」「見たことのない〇〇君を見られて良かった」という声も。アウトリーチ後、学生からざっくばらんな意見を聞くことができた。改めてダンスの持つ、コミュニケーションツールとしての可能性を感じる時間だった。



公演

『田畑真希ダンス公演「メルヘン」』

【演 目】『富山のマーチ』（ワークショップ作品）
『メルヘン』

【日 時】12月8日（日）15:00 開演

【出 演 者】田畑真希 王下貴司 カスヤマリコ
デジ（音楽）
ワークショップ参加者22名

【入場料金】前売1,200円 当日1,500円（全席指定）

【会 場】富山市民プラザ アンサンブルホール

【入場者数】165 名



富山市ダン活では初めてのダンス事業ということで、とにかくコンテンポラリーダンスの魅力を楽しくわかりやすく伝えてくれるアーティストを探した。そこで我々の思いにぴったりの田畑真希さんをお願いすることにした。見ていて何だか元気になるダンスは、初めてコンテンポラリーダンスを見る方にはずっと入っていきやすいと考えたからだ。作品は「まるで絵本を観るように…」というコンセプトと、場面ごとにがらりと色合いが変わるという点も飽きることなく見やすいと思い「メルヘン」を選んだ。ダンサーやミュージシャンのデジさんの楽器演奏もあり、複雑な味わいを持った作品で、「笑って和んで不思議な次元につれられて、最後は涙が止まらなかった」と感想もあり大変好評をいただいた。それから今回「メルヘン」を上演するにあたり、作品を事前に練り直し上演時間も長くしていただいたが照明の参考にする資料映像がなかった。そのため今年度ダン活で同じ「メルヘン」を先に上演された小田原市担当の方に公演の映像を送っていただいた。余談だが他のホールの担当者と時々情報交換をできたことはとても参考になり助かった。（白政さん有難うございました。）また今回は地域交流プログラムと別枠でワークショップ作品をつくるレッスンを行い「富山のマーチ」という作品が生まれた。スケジュール的にも厳しい中、アーティストの田畑さんやダンサーの皆様にご負担をおかけしたが柔軟に対応していただき、本当に頭の下がる思いだった。「富山のマーチ」はオープニングアクトとして上演。7歳～55歳までの22名の参加者が、田畑さんによってダンスの経験に関係なくそれぞれの輝きをもった素敵なダンサーに変貌した。全身でダンスの楽しさ、喜びを表現し、観客に伝えてくれた。今回のダン活では田畑さんが富山において確実にダンスの魅力を伝え、観客も、ワークショップ作品の出演者もそれを存分に楽しんでいた。集客には悩まされたが、公演内容は大変満足のいくものだったと思う。

Two posters for the dance performance "Melchen" by Tanaka Masahiko. The left poster is a simple illustration of two children in traditional Japanese clothing dancing. The right poster is a photograph of the same children performing on stage, with a large "X" graphic and the word "PROGRAM" overlaid. Both posters are framed with a decorative border.

—77—

●この事業への応募動機

当初、子育て中のお母さんと子供向けの企画を考えていた。そんな中思い出したのが、以前東京で参加した、山田うんさんのママ向けダンスワークショップだった。その時の何とも言えない満ち足りた幸せな時間が心に残っており、地方都市の富山でダンスワークショップを開いたり、ダンスのアーティストを呼ぶにはどうしたらよいか調べたりするうちに、たまたまネットでダン活事業を知った。魅力的な地域交流プログラム、研修やサポート体制に惹かれ、母子の企画だけでなく多様な企画ができればと考え応募させて頂いた。

●事業のねらいと企画のポイント

今回の事業では「ダン活（ダンス）を通してホールを拠点とした新たなコミュニティをつくる」をコンセプトに実施した。また、ホールとしては初めてのダンス企画のため、まず「コンテンポラリーダンスとは何か」、その魅力をダンス経験のない方にもわかりやすく、親しみやすいパッケージでお伝えするべく企画を練った。ワークショップはすべてダンス未経験者大歓迎、舞台は市民参加型とし、より多くの方に深くダンスに関わってもらえるものにした。また、作品の世界観を伝えるよう、告知チラシは二つ折りの絵本風の“メルヘン”を彷彿とさせるものに仕立て、田畑さんに会ってみたくなるような文面を心がけた。

●企画実施にあたり苦労した点

公演の集客以外であればなら、コンテンポラリーダンスの価値をどうやって伝え理解してもらうか、またどうやって周り（ホールのスタッフも含め）を巻き込むかに苦労した。担当となり当事者になると客観的に見るのが難しくなってくる。相手にも分かるよう、一方的にならないよう伝えるのは非常に難しかった。

また、個人的に経験も浅いこともあり、チラシ等制作の進行管理が行き届かず、アーティストや関係各所にはご迷惑をおかけした。それからアウトリーチ先の下見や様々な打合せで、アーティストをもっと良い流れで紹介したり話ができるよう、もっとよいコーディネートの仕方があったのではないかと悔いが残っている。より細やかなヒアリングができれば良かったと反省もあるが、今回は大変勉強になった。各場面でコーディネーターの菊丸さんや地域創造のスタッフの皆様に助けていただき大変有り難かった。

●事業の成果

今回のダン活の目標としていたコミュニティをつくること、コンテンポラリーダンスを知ってもらうことは、ある程度達成できたと感じている。また公演内容として、ダンス入門編としてもふさわしく、ダンスの楽しさを十二分に堪能できるものであった。公演やアウトリーチ、ワークショップで実施したアンケートのほとんどが好意的な意見で、「月1で開催してほしい」「富山でプロのコンテンポラリーダンスの公演を見ることができ良かった」など潜在的なニーズを知ることができた。またワークショップ作品参加者からは「自分たちがこれからプラザ（ホール）を盛り上げたい」と言ってもらえたこと、その関係性を築けたこと、また事業を通してアウトリーチ先など地域のネットワークを構築できたことも大きな収穫で、今までにないことだった。それから、通常のホールのやり方ではなく、新しい事業として色々な試みやアプローチをできたことは、今後も役立つ良い経験だったと思う。

●反省点、今後の課題など

公演自体はとても満足いくものであったが集客に悩まされた。TVCMまで打ったが、前売はなかなか売れず、結局ワークショップ参加者らの口コミで当日間際に売れた。もちろん我々の力不足もあるが、これはまだ富山にコンテンポラリーダンスが浸透していないことや、観て楽しむ文化や生活が定着していないことも理由と考えられる。今後の課題、ホールの役割として質の高い芸術文化を提供すること、また観客層を育てることも重要な使命と感じている。その意味でアウトリーチを継続、またダンスを知らない方でも気軽に参加できるような親しみやすいプログラム、参加しやすい環境を作っていきたい。またダン活で生まれたコミュニティを潰すことなく、更なる発展をさせていきたい。今回の事業を一過性のお祭りのように終わらせることなく、ダンスを富山に根付かせる努力が必要だと感じている。かった。今後は、今回開拓した層とのつながりを維持し、潜在的なニーズを開拓するためにも一步一步でも、ダンスの事業を継続し続けることが大切だと考える。

●この地域のダン活の特徴

ダン活応募のきっかけにはいくつかのパターンがあると思う。例えば、おんかつの経験、地域創造からの情報、地域交流や新たな事業の企画を立ち上げたい、たまたま…などなど。そもそも出会いとはそういう偶然的な要素から始まっているのかもしれないので、それに関して良し悪しはない。ただ、具体的かつ自主的な動機からのスタートだとすると、そこには主催者の考えや事業の意義など積極的な取り組みが打ち出され、事業全体を通して核となる一筋の道が貫かれていることも事実である。

富山市民プラザの場合は、担当者が、東京で体験したダンスワークショップで感動を受けた。その素晴らしさを地元で実現する可能性を図り、リサーチし、ダン活プログラムに出会ったという熱意からスタートしている点が、今回のダン活を通して大きな意味をもっていたと思う。

具体的には、子育て中の母子を対象にしたワークショップの実現、ホールを拠点としたコミュニティづくりのための市民参加型公演、地元大学へのアウトリーチなどが挙げられる。

富山では、以前もコンテンポラリーダンスの公演が実施されている所以からか、ワークショップの参加者の応募も珍しい程に早くから集まり、あまり苦勞せずに進んでいった。また、キーパーソンとなる大学の先生の協力も得る事ができた。

ただし、そうはいっても、ホールの主催事業として初めてのコンテンポラリーダンスなるものを組織内部に説得すること、一般市民に興味をもっていただくことに関しては、多大な努力が必要であった点では、他の地域との相違はない。

長期的な視点に立って、地域に根ざし発展させていく事業に対するビジョンを広く一般に向けて伝えて行く作業として、新聞、ラジオ、テレビ、情報誌などメディアへの露出による広報・宣伝、ワークショップ参加者に体験した楽しさを身を以て知っていただき口コミで広げて行く事、母子ワークショップでは終了後に食事会を設けて、お母さん同士のネットワークづくりを企画した事など様々な視点からのアプローチを試みる努力に惜しみなく臨んでいった。

なかでも、担当者が伝えたいダン活への思い、ダンスの素晴らしさを公演チラシに自身の素直な言葉で記載したことは、大きかったと思う。偽りのない等身大の言葉は、受け取った人々に違和感無く、感動的に伝わった。そして、この言葉や思いは、広報・宣伝やワークショップを通して一貫して伝わっていくものとなったように思う。

公演翌日にはワークショップ参加者や観客から、今後も継続してほしい！という言葉がホールに届けられたことは、担当者にとって、何よりの励みとなったし、組織内や外に向かって胸を張って伝えられる要素となった。

●課題とこれからに向けて

ダンスの種を蒔くことができた今回から、支援事業へと継続されることは本当に嬉しく、一気に大木にはならないことを忘れずに双葉から初めて愛情を込めて大切に育てていていただきたい。

また、一回目は情熱で乗り切れた事も、冷静かつ客観的に事業内容の細かい点を分析していただき、ワークショップや公演の内容、時間配分、広報・宣伝など見直す点はしっかり見直して改善していただきたい。例えば、母子ワークショップでは、通常より時間を短縮して行う、幼児もあきることなく興味を抱くような内容、仕掛けを準備するなど。

教育に力を入れている富山、住み易さ国内ランキング上位の富山が、やがてダンスで有名になる日もやってくるかもしれないという大いなる期待をもって、応援していきたい。

多可町文化会館ベルディーホール 実施データ

実施団体	兵庫県多可町
実施ホール	多可町文化会館ベルディーホール
実施期間	平成 26 年 2 月 24 日(月)～3 月 2 日(日)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 アシスタント：藤本 梓 共演者：岡本 彩 テクニカルスタッフ：伊藤おらん
コーディネーター	堤 康彦

■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 9 月 5 日(木) 18:30～19:30、アウトリーチ先の先生・テクニカルスタッフ・ホール職員、16 名、ホール舞台上 ■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場) ① 2 月 25 日(火) 10:00～11:30、兵庫県立北はりま特別支援学校、小学部、18 名、自立活動室 ② 2 月 25 日(火) 14:00～15:30、兵庫県立多可高等学校、演劇部員、13 名、柔道場 ③ 2 月 25 日(火) 19:00～20:30、ダンススタジオ Studio Be、レッスン生、22 名、ホール舞台上 ④ 2 月 26 日(水) 10:35～12:15、多可町立八千代北小学校、1～4 年生、58 名、なかよしホール ⑤ 2 月 26 日(水) 13:40～15:10、多可町立八千代北小学校、5・6 年生、27 名、なかよしホール 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場) ① 3 月 1 日(土) 17:00～19:30、小学生以上(公演チケット購入者)、無料、15 名、ホール客席(平土間使用)	
--	--

公演(演目、公演日、開演時間、入場料金、会場、入場者数) ■『風のすきま』 ■ 3 月 1 日(土)、15:00 開演(14:30 開場) ■ 500 円 ■ 多可町文化会館 ホール ■ 129 名	 
---	--

スケジュール

兵庫県多可町／多可町文化会館ベルディーホール

	下見①		下見②	
	9/5 (木)	9/6 (金)	12/11 (水)	12/12 (木)
9:00				
10:00		北はりま支援学校 下見		事務確認
11:00				
12:00		多可高校演劇部 下見		会館出発 帰路
13:00	ホール着		ホール着	
14:00	テクニカル打合せ	事務打合せ	事務打合せ	
15:00			CM 撮影	
16:00	八千代北小学校 下見	会館出発 帰路		
17:00	Studio Be 下見		テクニカル打合せ	
18:00	インリーチ			
19:00	インリーチ 振り返り		交流会	
20:00	劇団シーブ下見			
21:00				
22:00				

	実施期間						
	2/24 (月)	2/25 (火)	2/26 (水)	2/27 (木)	2/28 (金)	2/29 (土)	2/30 (日)
9:00		準備	準備	照明・音響 仕込			
10:00		北はりま支援学校 アウトリーチ	八千代北小学校 アウトリーチ①		場当たり	確認	ホテルチェックアウト
11:00		↓ 振り返り	↓	↓	↓	↓	帰路
12:00		昼食・移動	振り返り 給食交流	↓	↓	↓	
13:00		準備	八千代北小学校 アウトリーチ②	位置決め	↓	開場準備	
14:00		多可高校演劇部 アウトリーチ	↓	FOCUS	↓	開場	
15:00		↓ 振り返り	↓ 振り返り	↓	テクリハ	公演	
16:00		移動	楽屋養生他	明かり作り	↓		
17:00	到着	休憩	↓	↓	↓	公募 WS	
18:00	ホテルチェックイン	準備	↓	↓	↓	↓	
19:00		Studio Be アウトリーチ	↓	サウンドチェック	ゲネプロ	↓ 振り返り	
20:00		↓ 振り返り	交流会	↓	↓	片付け	
21:00		退館		退館	↓	事業振り返り	
22:00					退館	退館	

地域交流プログラム

●アウトリーチ①

北はりま特別支援学校の小学部の生徒を対象にワークショップを行った。みんなと一緒に身体を動かせる子、車イスに乗っている子、大勢の中では固まってしまう子など様々であり、田村さんの溶け込みが心配された。しかし、導入部分の「好きな動物になろう」というワークでは、好きな動物で教室を駆け回る一幕があり、子どもたちとアーティストの距離が縮まっていったように思う。

先生からは「動きが困難な子も、周りの楽しそうな友達の姿に刺激を受けて、何とか動こうとしていたのが印象的だった」と話された。個人差はあるものの、アーティストが与える刺激が伝わったようだった。

2月25日（火）10:00~11:30

兵庫県立北はりま特別支援学校 小学部 18名



●アウトリーチ②

普段、芝居をやっている生徒を対象にワークショップを行った。先生からは、「台詞中心の練習をしている。間の取り方や静と動の使い分けを勉強させたい」と意向があった。

導入部分で、アーティストから生徒たちに「体があったら何かできる」「表現しようとすればするほど逃げて行く」「価値観を変えよう」といった田村さんの芝居に対する思いを聞いた。

その後、体を動かすワークの中で「緊張」と「緩み」を体験した。この緊張と緩みが「間」に繋がっていくとアドバイスを受けた。生徒からは「イメージで教えられるより、体験できて良かった」と感想があった。プロの世界に触れたことで大きな経験になったようだった。

2月25日（火）14:00~15:30

兵庫県立多可高等学校 演劇部 13名



●アウトリーチ③

普段は、ジャズダンスを中心に勉強しているレッスン生を対象にワークショップを行った。指導者からは「時間中は自分の踊りしか教えられない。一つの分野だけではなく、いろんな世界を感じてほしい」と意向があった。

ここでは、田村さんは、「バカになる」「力をぬく」「空っぽになる」という説明をした。ワークでは、まずは体を緩めて「動かされる」を感じることから始まった。そして、動きのあるワークでは「力を入れて動くよりも、バカになって力を抜いて動いてみよう」というアドバイスを加えた。力を抜けば抜くほど表現が豊かになり、動きが止まった時の「静」がさらなる魅力を伝える、ということを体験で伝えた。指導者、参加者全員が新たな動きを感じられたようで満足を感じていた。

2月25日（火）19:00~20:30

ダンススタジオ Studio Be レッスン生 22名



●アウトリーチ④

小学生低中学年を対象にワークショップを行った。

先生からは「集中力が持つか心配だったが、普段は途中で投げ出してしまう子も、今日は最後までみんなと一緒に遊んでいた。私たちには見せない笑顔が見られた」と感想があった。元気な子数人に回りが引っ張られ、時間が足りないくらいの充実したワークショップであった。

子供たちの反応もよく、横道に逸れそうな場面もあったが、うまく利点を活かしながら、子供の盛り上がりを崩すことなく、内容を進めている田村さんの経験値を感じた。

4年生とは給食交流も行い、給食後は一緒に学校の掃除も行った。短時間でアーティスト・ホール・子ども達の距離が縮まり、今回だけで終わるのが非常に残念のように思えた。

2月26日（水）10:35～12:15

多可町立八千代北小学校 1～4年生 58名



●アウトリーチ⑤

6年生のクラスで、1学期に様々な問題が起こったよう。学年の隔たりなく一緒にワークすることで「学校の再構築」の期待を込めてのアウトリーチであった。

音楽に合わせてダンスすることをイメージしていた子どもたちだったが、ゆっくりと体をほぐしたり柔軟体操のコツを教えてもらったり、物をイメージして運んだりするうちに、田村さんの世界に魅かれていった様子だった。

先生からは「初めてする事に興味を持っていた。普段なら冷めて見ている子も、積極的に参加していた」と評価されていた。「全学年とも子ども達の目が輝いていた」と総括を聞いた。

2月26日（水）13:40～15:10

多可町立八千代北小学校 5・6年生 27名



●公募型ワークショップ①

ホールの地域特性からすると、複数日ホールへ足を運ぶことを避けたいお客様が多いと判断し、「公演と同じ日にワークショップをしたい」と提案したところ、田村さんに快く承諾いただき、公演後のワークショップが実現した。

公演後ということもあり、田村さんをよく知る方の参加や町内の劇団員などの参加があった。ストレッチから入り、動かされるイメージを感じ、静と動を体感するなど、終始大駝駝の舞踏に触れるワークだった。最後には、これまでの動きを使って、一つの作品をみんなの前で披露した。

劇団員からは、「このワークショップの後に、もう一回公演を観てみたい。」と演者ならではの感想があった。

3月1日（土）17:00～19:30

ベルディーホール 小学生以上(公演チケット購入者) 15名



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アーティストが学校へ行って何をするのか、どのような効果が期待できるのか、コンテンポラリーダンスとはどのような物なのか、を体で感じることを目的に、先生、ホールテクニカルスタッフ、ホール職員が参加した。

初めは、参加者全員戸惑いや不安があったが、アーティストからのアドバイスを聞きながら「動かされる」や「柔軟体操」を経験してくうちに、緊張もほぐれ楽しさに変わっていった様子だった。

先生からは「新しい発見や周りの皆と楽しむ時間を持つことができた、是非生徒たちにも経験させてやりたい」と前向きな意見が出された。ホール側も、田村さんのワークを経験でき、同じイメージを持つことができた。

9月5日（木）18:30～19:30

ベルディーホール アウトリーチ関係者・ホール関係者他 16名



地域交流プログラム内容

2月26日（水）多可町立八千代北小学校

●アウトリーチ、アーティストに期待を込めて

第1回下見時、教頭先生から「今この学校は諸問題があり、高学年で学年同士の関係が希薄になりつつある。学年に隔たりなく付き合っていけるきっかけにしたい」とワークショップに掛ける期待を聞いた。多くの学年に経験させたいので授業の組み換えは可能です、と学校側の柔軟さに少し安心した。

●インリーチの大切さ

インリーチに参加された先生がおられたので、田村さんがどういう事をされるかある程度理解されていたよう。予め子ども達にも、「ダンスのお兄さんと一緒に体を動かしましょう」と気持ちを盛り上げてもらっていた。ケーブルテレビのCM効果もあり、到着と同時に、「テレビのお兄さん」で距離が一気に縮まったよう。

●ワークショップ

1、2年生は、ノリがよく、活発な子どもに回りのみんなが引っ張られるような様子で、終始みんなが楽しんでいる様子であった。

3、4年生は、田村さん流の体のほぐし方に非常に興味を持っていた。4年生とは給食交流も行い、昼休みや掃除時間も田村さんと一緒に過ごせたので、別れ際には「いっこうさん」というお友達になっていた。

5、6年生は、最初はギスギス感があったものの、目を閉じて動くワークや物を運ぶワークの後には笑い合う場面もでき、最後にはみんなで一つの事に取り組んでいた。

●先生の率直な感想

低学年の子ども達には時間が長いのではと心配していたが、子どもの心を掴んでいただき、解放感に子ども達は浸っていたように思う。

高学年では、一緒に物事をするのを嫌う子もいるが、周りが楽しそうなので、今日は最後まで参加していた。今回の事業に手を上げて良かった。



公演

『ベルディーホール初の舞踏公演 大駱駝艦・田村一行「風のすきま」』

【演 目】『風のすきま』

【日 時】3月1日(土) 15:00 開演

【出演者】田村一行 藤本 梓 岡本 彩

【入場料金】500円

【会 場】多可町文化会館ベルディーホール

【入場者数】129 名



演目タイトル「風のすきま」は第1回下見時に田村さんが多可町で感じたことにちなんで付けられたよう。

舞踏の公演は多可町では初めての企画であり、馴染みの薄い分野であったので、集客が一番心配していた。通常ホールが行っているチラシ等の情報発信や地域情報誌の活用だけでは、不十分であると感じていた。多可町にはケーブルテレビがあり、コーディネーターからそのテレビを活用した宣伝方法を考えてはどうだろうかという提案を受けた。

ケーブルテレビでCMとしてオンエアすると、住民が目にする機会も増え「一度行ってみようか」と思う人が増えることを願い、田村さん出演のインタビュー形式のCMを作成した。このCMは大成功だったように思う。「CMを見た」「白塗りで踊る人ですね」といった感想が町中で聞かれるようになり、公演に足を運ばないにしても、舞踏、田村一行という名は広がったように思う。

また、初めての舞踏公演であったので、「一度行ってみよう」という気持ちにさせるかが重要と考え、入場料金を低めの500円に設定した。アウトリーチ先へは「一緒にワークをしているアーティストの本気の演技を身近で感じてほしい」という願いから、招待券として贈呈した。

これらの企画が良い方に転じ、予想以上の集客を得ることができた。来場者からは、演技に引き込まれていった、もう少し長く見ていたかった、よく分からないけどすごかった、どう感じているのか分からなかった、など率直な意見が聞かれた。

宣伝手法の新規開拓、地域素材の活用、新たな客層へのアプローチができ、ソフト的にも満足のいく公演であった。

公演パンフレット（A3 二つ折り）

出演者



振付・演出・出演
田村 一行（たむら いっこう）
東京都出身。1986年大船延鰳に入団。舞踏家・俳優である舞臺名（まうあかじ）に所属。92年より大船延鰳のスタジオ「宙中天」にて、自らの振付・演出作品の制作を開始。数々の振付で構成する作品には、新たな舞踏の可能性が注目されている。88年文化庁芸術家海外研修制度により、フランスを拠点に活躍する振付家、ジョセフ・マジの元へ留学。小野寺雄二、宮本亜門、日井晃、渡辺えりの舞台など客演も多数。舞踏の特性を活かしたワークショップは、子供から高齢者、高校・大学、各分野のアーティストまで幅広く好評を得ている。第3回舞踏批評家協会賞個人賞受賞。
平成25・26年度公共ホール現代ダンス活性化事業提携アーティスト。



出演
藤本 梓（ふじもと あずさ）
山口県出身。2007年大船延鰳入団。
入団後、大船延鰳の国内外公演を含めた全作品に出演。



出演
阿部 彩（あかもと あや）
東京都出身。2011年大船延鰳入団。
入団後、大船延鰳の国内外公演を含めた全作品に出演。



テクニカルスタッフ（大船延鰳）
伊藤 おらん（いとう おらん）
愛知県出身。2009年大船延鰳入団。
入団後、大船延鰳の国内外公演を含めた全作品に出演。

写真：山本廣明

ベルディーホール初の舞踏公演

大船延鰳・田村一行 舞踏公演



風のすきま

2014.3.1[土] 開演15:00(開場14:30)

多可町文化会館 ベルディーホール

主催／ベルディーホール 後援／多可町教育委員会 共催／(財)地域創造

平成25年度公共ホール現代ダンス活性化事業
提携アーティスト事業

多可町文化会館 ベルディーホール
〒670-0001 兵庫県多可町
TEL 079-275-1111 FAX 079-275-1100
E-MAIL info@berdierhall.jp

■舞踏とは■

1950年代に日本で生まれた踊りの一つです。大船延鰳（だいらくだん）は1972年、東京見（まうあかじ）によって創設され、以来「舞踏界」を牽引してきました。白黒・黒・裸体などの外見的特徴がインパクトを与えますが、その根柢にある、個人ならではの身体と向き合う方法や、根源的な舞踏へのアプローチしていくという考え方は、舞踏家のみなさん、広く世界の舞踏家・観客に受け入れられ、幅広いジャンルの人々に影響を与え続けてきました。現在では世界各域から注目される、日本を代表する舞踏集団の一つとなっています。

大船延鰳ホームページ <http://www.dairakudakan.com>

『風のすきま』

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

舞踏を含めた舞踏、舞踏、音楽、絵画などのいわゆる芸術というものに限らず、美しいと思う感情、面白いとかつまらない、好きや嫌いということや、幸運の価値観は人それぞれに異なり、とても個人的なものです。本日の公演も、そもそも見方に正解はありません。「何かを「感じなければ」と考えたり、「どう見ればいいのか」と迷う必要は全くありません。目の前で起きていること、目の前に存在し動いている**肉体**を通して、「何を「感じてしまったか」ということは**耳を傾けて**いただければと思います。始めて夕陽を見た娘が、その光景を少しでも長く眺めていたいと思えたように、「何か分からないけど...」として**湧き上がる**感情や気持ちは、生きている中で**確かに体験**したことのあるものだと思います。聞わくば私達の周り、そのように皆様の**体のすきま**に少しでも吹き込んで、心動かすことができましたら幸いです。

田村一行

場面表題

1. 五月の花嫁
2. 旅のはじまり
3. はざま
4. 死の方角
5. 三途魚
6. 星めぐり
7. 風のしわざ
8. 生まれて、帰る

アウトリーチ活動

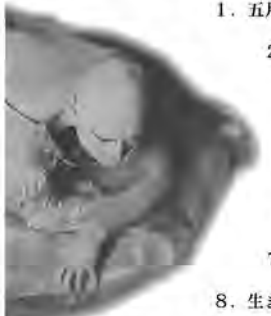


ベルディーホールでは、アウトリーチ活動として、国内外で活躍しているアーティストと一緒に市内の学校などで、子どもたちとアーティストと直接触れ合えるような機会を作ってきました。アーティストが持つ多様な価値観と子どもたちが出会うことで、子どもたちの想像力と創造性を高め、より豊かに成長できることに繋がると考えています。

この度、日本が世界に誇る「舞踏（ぶとう）」の代表的なアーティスト（だいらくだん）の田村一行さんを迎え、本公演に先立ち、北はりま特別支援学校、多可高校演劇部、Studio Be、八千代北小中学校でアウトリーチ活動を行いました。

舞踏のものを伝えるだけでなく、いつもと違う発想で「自分の体と向き合う」、無くなって「動かされる」ことの大胆さを伝えてきました。

今すぐには役立たなくても、これからの成長の過程で自分のヒントに、自分自身の感動を表現するヒントになればと思っています。



●この事業への応募動機

当ホールでは、演劇や音楽を中心とした自主公演事業を行っている。来館者の年齢層や居住区に偏りがあるように感じていた。このような現状の中、新たな分野の公演を打ち出すことにより、新たな客層の獲得と公演内容を多様化させることを期待した。

また、アウトリーチが含まれていることで、ホール以外のいろんな場所へ出かけて行くことができ、ホールを身近に感じてもらう機会と捉えたため。

●事業のねらいと企画のポイント

当町では、アーティストが出かけて行き、そこで直接ふれあう「アウトリーチ」がまだまだ普及しておらず、ホール側からもその効果をうまく伝えられない状況であった。

多くの人に経験をしてもらい効果を感じてもらうことで、口コミで広がっていき、それが公演につながり、新たな事業企画、顧客開拓につながることを期待しての事業であった。

派遣先の担当者には「ダンスを教えにいくのではない。アーティストと直接触れ合って、プロの世界を感じてほしい。子ども達と芸術との出会いの場である。」ということを説明した。

●企画実施にあたり苦労した点

コンテンポラリーダンスというジャンルがこの地域では馴染みが薄く、また、私がアーティストのパフォーマンスを見る機会もなく事業が開始したので、アーティストが多可町でしようとしていることを説明するのに苦労した。

公演の宣伝面でも、ホール側がアーティストのパフォーマンスを十分把握しないままの宣伝であったので、どのような分野の方にアタックしていいのかターゲットを絞りきれないままになってしまった。

事務的なことについては、関係者が複数の事務所にわたることにより、事務調整やメール送受信の場面で煩わしさを感じる場面があった。また、アウトリーチ先からのスケジュール的な相談事にも、まずアーティスト、というしがらみから即返事できない煩わしさを感じた。

●事業の成果

複数会場でアウトリーチが行えたこと、ホール関係者がアウトリーチを経験できたこと、宣伝手法の見直し、ができたことである。

これまで、アウトリーチは単発的に行ってきており、いつのまにか終わっていたということが多かったが、今回は2日間4会場で行うことができた。大がかりなスケジュールであったため、担当職員以外のホール関係者も興味を持って接することができ、複数の人が見学などで携わることができた。アウトリーチの持つ意味、効果を職員も経験することができた。

また、ケーブルテレビを利用して動画で公演情報を発信することは、非常に大きな影響力があった。テレビは誌面より強力な広告媒体であることを認識したため、今後の情報提供の重要なツールとして利用していきたい。

●反省点、今後の課題など

町内でのスケジュール調整を優先するあまり、アーティスト側のスケジュール管理や交通手段の情報提供の不足が生じてしまった。役割分担について担当者の勉強不足が原因であった。事業実施にあたっては、まず要綱など約束事を理解の上、現場作業を進めて行く必要があると思った。

今回の事業で出会った子どもたち、先生とのネットワークを大事にして、ベルディーホールの存在が薄くならないよう参加型など魅力的な事業を企画していきたい。また、多くの方が携わる事業には情報共有が大切であることを経験した。事務所内はもとより、外部関係者とのやり取りが多い場合は、是非心掛けたい。

●この地域のダン活の特徴

ベルディーホールは、多可町（人口約2万3千人）の文化行政を担う、町直営による、616席の多用途ホール。2005年に3つの町が合併したため、地域的なバランスも見ながら町民のニーズに応え文化を発信している、とのこと。積極的に自主事業も展開しているが、コンテンポラリーダンスは町民になじみは薄く、ましてや今回のダン活アーティストの舞踊ジャンルである「舞踏」となると、まったくのはじめてづくしだったそうだ。

経験のないジャンルの芸術を紹介するため、ホール担当者が早め早めに準備をした様子で、特にアウトリーチ先のリサーチはかなり早い時期から積極的に動いていた。地域創造やアーティストから提供された映像資料を活用して、可能性のありそうなところに足を運び、ワークショップについて、「ダンスのレッスンや指導の場ではない。プロから表現力を学び、身体を使った表現の楽しさを経験する場なのだ。」ということをし、直に話すことで、多くの団体や学校から実施希望の手が挙がった。結局、1回目の事前研修(下見)のときには、早くも実施するアウトリーチ先のすべてのところと打合せをすることができ、かつ、インリーチワークショップにアウトリーチ先の担当の人たちに実際に参加してもらうことができて、その後の展開がスムーズになった。

心配された公演の集客も、アウトリーチ先に対する積極的な声かけやケーブルテレビの活用などによって、予想を上回る集客を達成した。

また、公募ワークショップは、ホール担当者の考え・アイデアで、これまでのダン活でも例を見ない、舞台公演本番後、その日の夕方に実施するという形式を取った。緞帳を下ろして舞台上は撤収作業を進めながら、客席側を機構の活用によりフラットな床面にしてワークショップを実施した。公演観劇後の感動覚めやらぬうちに、今度は自分が身体を動かして舞踏を体験する、そして最後には短いパフォーマンスを互いに見せ合う、と言う参加者の経験は非常に面白かったと思う。もちろん、アーティストの企画に対する理解と前向きな姿勢があつてこそ実現できたことである。

●課題とこれからに向けて

人事異動のため、ホール担当者は前年度に実施した全体研修会を経験せずに、今回事業に携わり、苦労が多かったと思うが、持ち前の積極性により、そして他のスタッフのバックアップもあつて、担当者変更による大きな問題はなかった。逆に、優秀な技術スタッフを含め、ホールが一丸となって今回の事業に向き合っていること、そして互いに意見を言い合える風通しのよさをスタッフの皆さんから感じる事ができた。少ない人員で、多くの自主事業、貸館事業をこなしながら、今回のように新しい芸術分野やアウトリーチ事業に踏み出していくのは大変なことだと推察する。館長が全国のホールの動向に関心を持ちながら、いまの公立ホールのあるべき姿、そして多可町の文化行政のあるべき姿を真摯に考え、マンネリ化を打破し、ベルディーホールを改革していこうという気概を持って運営されていることに敬意を払いたい。ぜひ、この姿勢を今後も継続してほしいと願うとともに、今回のダン活を通して培った、地域との関係やネットワークを大切にして、それらを今後のホール運営に活かしていってもらえればと思う。

事業資料

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

1 趣旨

財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

2 対象団体

原則として、当該事業を実施したことのない市町村等を対象とする。

※「市町村等」とは、次の団体をいう（以下同様）。

- ① 市区町村（政令指定都市を除く。）
- ② 地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、市町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益法人制度改革三法*による特例民法法人、公益財団法人等（②を除く。）のうち、市町村が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

*「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

3 事業内容

実施市町村等は、次の事業を実施する。なお、(1)と(2)は、原則として、合わせて 6 泊 7 日以内の事業日程で行うものとする。ただし、企画の内容等により、当該日程の範囲内で事業を実施することが難しい場合は、関係者間で協議のうえ、地域創造が認めた場合においては、現地下見（個別研修）を含め、地域創造が認める日数の範囲内で行うことができるものとする。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティスト（ソロ、またはデュオ）の中から、実施市町村等の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(1) 公演（ダンス公演）

公共ホール等で開催する有料のコンテンポラリーダンス公演（以下「公演」という。）を 1 回実施する。

なお、入場料収入は実施市町村等に帰属するものとする。

(2) 地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ^(※1)及び公募等によるホール内で実施するワークショップ^(※2)（対象には学校の教職員等を含む。）を 5～6 回実施する。なお、アウトリーチは最低 3 回、ワークショップは最低 1 回実施する。

※1 1 回 90 分を目安とする。

※2 1 回 120 分を目安とする。

(3) 関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む。）の学校や福祉施設等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ^(※)を 1 回実施する。

※ 60 分を目安とする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、別紙2に定める額を上限として地域創造が負担する。ただし、下記以外の現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、会場要員費その他の諸経費及び実施市町村等が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、実施市町村等の負担とする。

(1) 公演、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

登録アーティスト、アシスタント^(※1)、公演の共演者及びテクニカルスタッフ等^(※2)の出演料又は謝金、交通費（実施市町村が負担する現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

※1 地域交流プログラムのアシスタント及び公演の共演者である者をいう。

※2 公演準備（地域交流プログラムを除く。）のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手及び制作者等をいう。

(2) 現地下見（個別研修）に係る経費

登録アーティスト及びテクニカルスタッフ等の交通費（実施市町村が負担する現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

5 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施市町村等を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施市町村の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施市町村等に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、現地下見（最大2回まで）及び実施時に行う。

6 提出書類等

(1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3

平成25年度に本事業の実施を希望する市町村等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成24年8月13日（月）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。（別記様式1-4）

(2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2

全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。

(3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2

事業実施2ヶ月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。

(4) **実績報告書** …別記様式 4-1、4-2

事業終了後 30 日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ・パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。

ただし、平成 26 年 3 月 16 日（日）以降に事業が終了する場合にあっては、平成 26 年 4 月 15 日（火）までに提出することとする。

(5) **変更承認申請書** …別記様式 5-1、5-2

実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

(1) **共催に関する表示**

実施市町村等は、対象事業実施会場及び対象事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

（表示例） 共催：財団法人地域創造、共催：(財)地域創造

(2) **損害賠償の免責**

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(3) **関係書類の提出**

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施市町村等の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

(4) **情報提供**

地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施市町村等は協力するものとする。

(5) **その他**

事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。

また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施市町村等が協議して決定する。

登録アーティスト

- ・平成 25・26 年度 登録アーティスト（計 7 組）
 田畑真希、田村一行、矢内原美邦、山賀ざくろ、赤丸急上昇（赤松美智代＋丸山陽子）、
 勝部ちこ＋鹿島聖子、坂本公成＋森裕子（Monochrome Circus）

参考

事業の流れ・手続き等

●平成 24 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
7 月～8 月上旬	申込み受付（8 月 13 日（月）締切）	事業申込書 （別記様式 1-1、1-2、1-3＊） （＊要綱 2②及び③に該当する団体は、地方公共団体の長の副申書（別記様式 1-4）を添付）
10 月上旬	事業内定通知	
11 月上旬	第 1 回全体研修会（入門編）の開催 （11 月 13、14 日 開催場所：東京芸術劇場）	
1 月上旬	第 2 回全体研修会（アーティストプレゼン編）の開催 （1 月 7 日、8 日 開催場所：東京芸術劇場）	
1 月中旬	事業実施計画案の提出	事業実施計画案 （別記様式 2-1、2-2）
3 月上旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

●平成 25 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月上旬	事業実施団体の決定通知	
4 月～	現地下見（個別研修）の実施 （関係者向けワークショップの実施）	
事業実施 2 ヶ月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書 （別記様式 3-1、3-2）
事業終了後 30 日以内	実績報告	事業実績報告書 （別記様式 4-1、4-2）

地域創造が負担する経費

1 公演事業、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

①登録アーティスト（ソロまたはデュオ）

- ・ 1 回の公演及び 5 ～ 6 回の地域交流プログラム並びに 1 回の関係者向けワークショップにかかる出演料
- ・ 6 泊 7 日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 1 往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※出演料に含まれる経費

ワークショップ講師・公演出演料、振付・演出料、衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費、照明・音響プラン料、制作費、稽古場代、公演に使用する映像ソフト代、写真使用料、広報・宣伝及びプレ・アフタートーク等関連企画への協力、個別研修、経常経費、飲食費

※関係者向けワークショップに係る宿泊費及び日当、交通費、損害保険料は、現地下見（個別研修）に係る経費で支給する。

②アシスタント（登録アーティストがソロの場合に限り 1 名まで対象とする。）

- ・ 1 回の公演及び 5 ～ 6 回の地域交流プログラムにかかる出演料
- ・ 6 泊 7 日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 1 往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※「3 事業内容」のただし書きにより事業を行う場合には、上記に加え、必要に応じて現地移動費を除く 1 往復分の交通費、宿泊費及び日当を負担する。

③公演の共演者（1 名）

- ・ 1 回の公演出演料
- ・ 3 泊 4 日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 1 往復分の交通費
- ・ 損害保険料

④テクニカルスタッフ等（1 名）

- ・ 公演準備にかかる謝金
- ・ 3 泊 4 日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 1 往復分の交通費
- ・ 損害保険料

2 現地下見（個別研修）に係る経費

①登録アーティスト（ソロまたはデュオ）

- ・ 1 泊 2 日以内で 2 回分までの宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 2 往復分までの交通費
- ・ 損害保険料

②テクニカルスタッフ等（1 名）

- ・ 1 泊 2 日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く 1 往復分の交通費
- ・ 損害保険料

コーディネータープロフィール

●佐東 範一(プロデューサー、NPO 法人 JCDN 代表)

1980 年舞踏グループ「白虎社」の創立に参加。以後 1994 年の解散までの国内公演、海外ツアーにて舞踏手兼制作者として活動。1996 年アメリカ・ニューヨーク、ダンス・シアター・ワークショップにて 1 年間のアートマネージメント研修。1998 年から 3 年間の準備期間を経て、2001 年 NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) を京都にて設立。ネットワーク型 NPO として、「踊りに行くぜ!!!」開催、「コミュニティダンス」の普及、ダンス・イン・レジデンスの推進など、日本全国にて社会とダンスを繋ぐ様々な活動を行っている。

●志賀 玲子(プロデューサー)

2005～2009 年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。1990～2008 年兵庫県伊丹市立演劇ホール (アイホール) プロデューサー。2000～2007 年びわ湖ホール夏のフェスティバル プログラムディレクター。2003～2006 年京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。他、財団法人地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作、等。2005 年 6 月より、神経難病 ALS 発病の友人の支援を開始。現在、京都／西陣で織屋建の町家を改造しダンスの稽古場を併設した空間で、24 時間他人介護による独居生活<ALS・D プロジェクト>をコーディネート。ホームヘルパー2 級。

●堤 康彦(NPO 法人芸術家と子どもたち代表)

東京ガス(株)に在職中(1987 年より 10 年間)、東京都新宿区にあるパークタワーホールにて、ダンス・音楽・美術等の舞台公演や展覧会のシリーズ企画をプロデュース。その後、芸術普及 NPO や大阪府立大型児童館の勤務を経て独立。2001 年に「特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」を設立。現在、東京都豊島区の廃校(にしすがも創造舎)を拠点に、学校教育と地域(まち)という 2 つのフィールドで子どもに関わる事業を展開する。

●菊丸喜美子(プロデューサー)

アートマネージメント、文化政策全般に関する講座の企画・運営のほか、国内外のコンテンポラリーダンスの企画制作に早期から携わる。地域の公共ホールとコンテンポラリーダンスのアーティストを結ぶ活動にも積極的に取り組み、地域滞在型(アーティスト・イン・レジデンス)のワークショップと公演、市民参加型の事業のコーディネートに実績を持つ。また、演劇、音楽、美術をはじめとするジャンルを超えた芸術・文化活動にも意欲的に取り組んでいる。

●花光 潤子(パフォーミングアーツプロデューサー、NPO 法人魁文舎代表)

演劇・ダンス・ビデオアート・現代音楽などの現代芸術から伝統芸能まで、ジャンルを越えた実験的な舞台芸術作品を多数企画プロデュースする。海外との芸術交流も多く、1984 年エジンバラ演劇祭招待参加を皮切りに日本人アーティストの外国公演のオーガナイズや外国のカンパニーの招聘公演、国際共同製作などを手がける。アジア女性演劇会議、日韓友好記念舞踏フェスティバル等の事務局長を歴任。1990～1992 年オルタナティブスペース「246CLUB」の海外部門ディレクター、1992～1997 年まで藤沢市湘南台市民シアターで芸術監督太田省吾氏の下、自主事業の企画制作に従事。その経験を活かし、地方都市の文化行政や施設運営に関する芸術環境整備の提言、調査研究などの仕事にも携わる。1996 年から 10 年間大阪の IMI 大学院スクールにてアートマネージメントの人材育成に務め、現在多くの卒業生が全国各地の文化施設で活躍している。

●平岡久美(Dance in Deed! 代表)

主にコンテンポラリーダンスの制作として、黒沢美香をはじめ多くのアーティストの公演やワークショップの開催に携わるほか、トヨタコレオグラフィアワード、青山劇場・青山円形劇場(こどもの城)等の制作に参加。2003 年「フランスダンス 2003」事務局次長、2009・2012 年「ダンストリエンナーレトーキョー」プロデューサーを務め、ダンスフェスティバルの企画・運営も行う。近年は、篠原聖一、下村由理恵、キミホ・ハルバートなどバレエ公演の制作も手がけている。

平成 25 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／平成 26 年 6 月